

NET

74  
25



Come  
Retreat  
Fight

# RUSSIA AND GROMOVCI BACK IN VLADIVOSTOK

## Dr. Seaman, of New York, Sees the "Awe-Inspiring" Shell- ing of Port Arthur.

By Thomas F. Willard,  
Special Correspondent of the World.  
(Copyright, 1904, by The Press Publishing  
Company, New York World.)  
SHANGHAI, (China, Aug. 17.—The  
commander of the Japanese squad-  
ron watching of the Japanese squad-  
ron mouth, twelve miles distant,  
intimates that he intends to steam  
up here and seize the Russian pro-  
tected cruiser Askold and torpedo-  
boat destroyers Grosovoi and torpedo-  
boats leave the port forthwith  
Askold, badly damaged  
and repairs on





渡米日記及余米國觀

明治  
37 11 30  
肉空



表紙ノ模様ハ本年八月十八  
日發行組育ワールド新聞ノ  
切抜ナリ余カ日本政府ノ密  
旨ヲ帶ヒタルモノ、加ク記  
セルハ新聞屋ノ如オナキ所、  
之レヲ表紙ニ載セタルハ小  
生ノ……………

自序

余の極端なる島國根性を以て極端なる放任主義の米國  
を見る、事毎に意外、随分落なく書き載せたる積なれども  
材料は百日話すも盡きざるべし、ツマラヌものを梓に上  
すは雞肋とやらの捨て難きか爲め、文章は書き流し、分か  
らぬ所あれば何時ても來給へ

明治三十七年十一月

大阪市東區平野町一丁目二十番屋敷住

奥 戸 善 之 助



# 渡米日記

奥戸善之助著

明治三十七年七月六日、大阪を發し渡米の途よ上る

晴天早起先つ一浴して日本の垢を洗ひ落し午前七時五十五分梅田を發し神戸に向ふ見送られたる知友數十名或者は汽車を共にして神戸に到り船中迄も見舞はれたる厚情の程謝するに餘りあり九時神戸に着山下岡田の兩辯護士を訪ひ正金銀行に行き渡米に關する諸般の準備を調へたる午後三時「メリケン」波止場より「バシフィック、メール」會社の「ランナ」にて汽船「チャイナ」號に搭す

四時三十分船神戸港を發す、氣晴れ波穏にして舟行速かなれども始めて外國船に乗りたる余は萬事に勝手悪しく船室の狹隘なること且薄暗きよ加之褥暑甚しく船室を逃げ出して



甲板に在る事數時やがて支那「ボーイ」か夕食の成るを告ぐ、食堂に入れば佛國兵士と覺しき者二三支那人の中流紳士と共に座に在り互にベチャクチャ喋りながら牛豚の皿を平ける事美事なり、余は唯「スープ」及び「パン」の數片を食ひたるのみなれども汽罐の臭氣と蒸暑さにて腹一杯となり復たく甲板に逃げ出したり深更室に歸り狭く暑き「ベッド」の上に重き頭を横たへ何時トハなしに眠りに就き夢は遠く亞米利加の空に飛びぬ

七月七日 晴、横濱着

遠洲灘の怒濤舩を洗へども五千何百噸の巨艦ビクともせず盛装したる西洋婦人兒を携へて甲板を逍遙し得意らしき笑聲高く嬉遊するを見受たるも余等日本人は一向に氣焰揚らす大に閉口の體今更に日本男兒の腑甲斐なきを思はれ船に弱きは吾人同胞の一大弱點なるを覺れり午前十時遠く富士山を望む、午後一時觀音崎の邊を過ぎ四時横濱に着す、出帆は九日午後三時との事にて茲より二日間碇泊の筈なれば余は此間を利用して東京の知友を訪ふべく上陸せり

六時東京に着し姻戚大塚氏宅に宿す

七月八日 晴、東京滞在

杉浦先生を小石川の邸に訪ひ晝餐の饗を受け上野公園に涼を納れ淺草公園に昔の面影を忍び更に向島に到らんとし吾妻橋を渡れば「サツポロビール」の煉瓦屋高く烟突の林をなせり昔日の佐竹邸今や此くの如し誠に墨堤の美觀を損するもの余は寧ろ其殺風景なるま驚き戯れて「サツプケビール」の語を残し對岸に到らずして引還せり、歸途御藏跡町の高等工業學校に手島精一氏を訪ひ米國博覽會に關する注意を受け日本生命保險會社支店に淺岡氏を訪ひ晚餐の饗を受けたる後原(元藏)辯護士をその事務所を訪ひ塾友田中仁十郎氏が經營せる鐘詰商店を見、原、田中、両氏と共に采芳亭に飲む、午後十時大塚氏宅に歸り宿す

七月九日 晴、東京發

午前九時東京を發し横濱に向ふ正午復「チャイナ」號に乗込む三時船横濱を發す、前日來



の強風尙その威力を逞うし波浪を揚ぐること高し、余はこの時より船室を替へたるに依り大に便利を得たれども尙暑さと船暈の爲めは食堂に到るの勇氣なく終日甲板に在りて暫らく相離るべき日本の陸を見送り又海を見送りたり

七月十日 晴、汽船中

風浪殊に高く水面以上三十尺もあるべき「アツバー、デッキ」を洗ふこと屢々なり、多くの乗客船暈の氣味あり、余も亦終日食卓に就く能はざりし、見渡せば四面渺茫只水あるのみ、羅針盤に依りて西の方日本の故園あるを知れども船は早や已に太平洋上四百哩の沖合に在り心細きこと限りなし此邊黒潮流る平穩の日と雖も常に風浪高しと聞く、歌あり

黒潮の山又山を打たたき、行く船早し風帆に満つ

午後三時過ぎに到り時辰三十分を進ましむ個は經度の相違より今後日々に生すべき時差なり、學理上當然の事なれども始めての旅には珍らしきことに覺へし

七月十一日 晴、汽船中

波稍々静よして氣爽快始めて朝食の膳に就く、船内食膳の美今更に米人生活の程度高きを思ふ、圖書館あり、音楽室あり、上甲板には輪投げ玉突きの遊戯を演ずべく涼風徐ろよ來る處長椅子を横へて快夢を貪るべし、或は喫烟室に快談縱横酔ふて枕すべき美人は無くとも醒めては握る「ウイスキー」の「コップ」あり、太平洋上波靜かなるとき四望皆水、島もなく船もなく日々變るは空模様のみ何の奇なく變なしと雖も慥かに退窟を覺へざる迄の設備あり而かも下等船客に到りては如此快樂存せず荷藏同様の所に押込められて殆んど人間扱ひにせられざる模様なり米國は實に現金主義なる哉、金錢の貴きこと茲に到りて知るべし、食堂の給仕は何れも支那人なり加之客室の「ボーイ」及料理人その他雜役に従事する者多くは支那人よして日本人は只「デッキボーイ」と「ウエーター」よ二人あるのみ、支那人の職務に勤勉なるまた能く従順なる實に稱賛に餘りあり、遠く外國に出で孜孜利殖を計る其勇や嘉すべく盛に支那人一流の不完全なる英語を操りて總ての用を便す其智や及ぶべからず、日本人たる者當さに大に鑑むべきものあるべし、この夜上



甲板に於て日本人會を開く上等船室に在る者殆んど皆之れに列す「メキシコ」に移民を連れ行く「ドクトル」あり移民會社員あり、布哇の支店に趣かんとする廣島の商人倫敦に赴かんとする造船技師、セントルイ博覽會に赴く京都の紳士、テキサス洲に米作を見んとする者數名、十人十色の希望を聞きながら太平洋の眞只中に「ビール」を抜き田麩を肴として放言壯語すその快云ふべからず、深更寢に就く

七月十二日 晴、汽船中

早起始めて浴を取る洋式の浴槽清潔にして冷熱自在なり、自から湯口を捻ぢ又水口を捻ぢ乃公獨占の陶器風呂すべつたり轉んだり勝手な藝當を演しながら漸くにして出發以來の垢を落すまた爽快、此頃より甲板上の運動日を追ふて盛なり余も亦茲に「ジャパン、インド、ロシア」と云ふ遊戯を爲す、又此日より毎日午前十時日本人相會してウイン夫人の聖書講義を聴く

船客に露西亞の一紳士あり英語を能くす日本人仲間に入來り大に日露戰爭論を試む小松

氏論戰大に勉め旅順口租借の點に就き手痛く露人をへこませたるは愉快なり

七月十三日 晴、汽船中

この夜上甲板に日本人會を開き大に歌ひ且つ呑む船中は勿論米國人大部を占むるも日本人十三名あり支那紳士六名印度紳士一名暹羅紳士一名は何れも東洋人のことゝて間々日本仲間入を爲さんとす、甚だ面白し

七月十四日 晴、汽船中

午後三時夕立大に降る、出帆以來の降雨珍らしく日々晴天續きよて洋中何の奇もなく目に遮るものなき渺茫たる水のみを眺め未だ嘗て一艘の舟にだも出逢はず只時よ名も知れぬ海鳥の舷近く飛び來ると雲の峯の折々その姿を變ゆるを物珍らしく打見るのみ夕立は實に此間に於ける珍客なり

夕立や大洋狭き五六丁

七月十五日（第一）晴、汽船中



午後二時頃甲板にて同船日本人の寫眞を撮る當さに他日好個の紀念たるべし夜「ソシヤル、ホール」は西洋人の音樂會あり

七月十五日(第二)晴、汽船中

この日正午迄に船進むこと二千三百六十哩(横濱より)既に世界の西半球に入りて正さに西經百七十四度三十分北緯二十九度三十二分の所に在り故に今や日本の背面に在るものにして經度の關係上七月十五日は恰かも二重に數へざるべからず、同じ日が二日あるとはうまい勘定なり、此日午後二時半より西洋人の運動會あり四時頃大に雨降る爲めに中止す

七月十六日 晴、汽船中

午後五時警鐘頻りに鳴る船中備付のポンプ皆働き又水夫の救命艇に向て走るを見る、驚き問へば消防の練習をなすなりと用意の周到喜ぶべし此夜始めて西半球に三日月を見る銀波漣漣涼味掬すべし、句あり

船十日水に三日の月涼し

七月十七日 晴、汽船中

午前十一時より「ソシアル、ホール」はウイン氏の祈禱會あり、午後三時下等船客の爲めはウイン氏及星野氏の説教あり

明日は久し振りにて布哇の陸地を見るべき希望あり船客多くは書翰日記等を認め居れり七月十八日 晴、布哇着

此日は布哇「ホール」、着の當日とて前夜來樂み居る日なれば疾く起き出で見るに天氣晴朗午前五時右舷遙か「カワイ」島(布哇群島の一なり)を見る十日計り陸地を見ざる船客皆同じ思にて甲板に集まり懐しげに見送る内午前七時又左舷「オハウ」島を見る此島は則ち布哇の首府ある所にして「ホール」は其港なり

(布哇略記)

布哇群島は「ハワイ」「カワイ」「オハウ」「マウイ」「モロカイ」「ラナイ」「ニーハウ」等五六



の島より成る、其内「ハワイ」島最も大にして面積四千二百十平方哩あり「オハウ」島は面積六百二十平方哩にして「ハワイ」島の西にあり「カワイ」島之に次ぎ頗る繁盛なれども「オハウ」島との距離凡そ六十三哩ありと云ふ、全島の人口は約十五萬にして内日本人六萬一千餘あり、此島は西曆千七百七十八年「キャプテン、クック」氏の發見する所より其前第十三世紀の頃日本の漁夫此處に漂着して土人と結婚したる事蹟ありとの事、西曆千九百年迄は獨立國として「ホノル」に首府を置き「カメハメヤ」王之に君臨したりしも遂に其獨立の難きを知るに及び北米合衆國之を購入して其一洲となし知縣を派して諸般の政治を施せり、全島山多く「ハワイ」島の「マヌアキー」山は海拔一萬三千八百五呎、我富士山よりも高き事實に一千三百尺なり、而かも耕作に適する沃地は二十五萬「エークル」(「エークル」は我千六百坪に當る)の餘あり、氣候地位は熱帶に屬すれ共酷暑ならず變化も亦少くして極寒と雖も六十度を下らす極熱八十六度内外なりと、合衆國政府は大に移民を歓迎し土地を與ふるに四種の方法を採る、一は賃借

地買受法、二は現金拂下、三は特別契約法、四は長期賃借法にして産出の最大なるは砂糖及び咖啡等なり、横濱よりの航程三千四百四十哩太平洋中の極樂にして遺利甚た多し

午前十一時船「ホノル」港外に到る、檢疫最も嚴重なり、此時檢疫官に従ひ來れる通譯某日本人の談に依れば某日旅順港包圍中の我兵三萬人餘敵の地雷火に罹り死傷せしとの報ありきと、同船の内外人皆な一驚を喫せしも、其露西亞電報なりと聞きては何れも之を信せざる者多く、吾等日本人は皆其虚報たらん事を祈るも到底此地に於ては事の真相を知る能はざる由なり、檢疫も漸く濟み船は徐々進んで「ホノル」港口に達す、名にし負ふ「ダイヤモンド、ヘッド」(金剛石の頭に似たる山)は宛然安房の鋸山を見るが如く、又恰かも讃岐高松の八島に酷似す、「ホノル」市街は此山麓より蜿蜒數哩に渉り大度高樓指呼の裏に在り、港内水深くして大船巨舶も自由より其棧橋に横付するを得べく、棧橋には數條の軌道を敷き汽車こゝより發着す水陸の連絡最も善く十分の設備あり、規模の宏



大なる今更驚くに堪わたり、太平洋中の一小島開墾未だ幾ならずして已に此施設あり我國神戸横濱の開港場にして尙ほ此新開地に及ばざる事遠きは奈何、嗚呼金の世界なる哉午後二時上陸す税關も無事に過ぎ、鈴木、佐々木氏と共に馬車を驅て日本領事館に赴く黒塗の幌馬車御者を加へて四五人を容るべし、馬肥大にして駿足飛ぶが如し廣さ十間以上もあるべき大道を意氣揚々右顧左盼して疾走す快云ふべからず

途次「キング」街に本重商店を訪ふ、此街は波止場に近き繁華の所にして殊に日本人、支那人の商店多く軒を並べ「うごんや」「すしや」は日本的にして酒店は支那的なり、余等は寧ろ此邊の光景を以て神戸の海岸に比し故國に在るの思をなしたり

本重商店を出で「フォート」街に至る此街は「ホル、」の中央に在り高樓櫺比恰も東京の銀座通を見るが如し書店に入り繪はがき及び名所圖繪を買ひ、郵便局に行き日本への書信を發す

郵便局の應接は皆妙齡の婦人にして甚だ繁忙を極むれ共鄭寧親切なり、切手を買ふもの

あり小包を出すものあり發送時刻を聞くものありはがきを書くものあり、雜沓甚だしく始めての旅客は只「マゴック」のみにして爲めは鈴木氏の如きは錢勘定を誤まり五仙の切手を貼るべきに十仙を貼り數通にて四五十錢の損失をなせり、上陸後始めての失策氣の毒なり

夫れより「ヌアヌ」街に日本領事館を訪ひ、齋藤領事に面談する事數時、戰報を聞け共要領を得ず製糖業及び移民の狀況等を聞き辭して「カピオラニ」公園に到る途上見る所布哇政廳は舊王宮の跡にして太だ壯麗なり、裁判所は其前に面す「カメハメヤ」一世の銅像巍然として高く政廳を睥睨して長く布哇の守護神たり、電氣鐵道は街衢を縦横に通過し車輛幅廣く兩側開放しあり、是れ全く熱帶の地温度高き爲め風通の能きを専らに作りたるものならんも、不馴なる日本人には危険なるべしと思はる、途上通過の土人は概ね皆跣足にして色淺黒く顔醜し、盛に文明の利益を輸入すれ共尙ほ野蠻の域を脱せず文明の利器は皆白人に占められ、土人と白人との合の子益々多くして純粹の土人は幾何もなく



遂に其跡を絶つに至らんとす

「カビオラニ」公園は「ダイヤモンド、ヘッド」の麓に在り、規模宏大日本の如き箱庭的の比にあらざるを以て一見稍々趣味に乏しきの觀あれ共珍樹寄木一として妙ならざるは無く「バナ、」コ、ナット」の類、累々として枝に在り名も知らぬ浮草池中に花を開き帯を逆にしたらんが如き「バーム」樹高く天を衝く處、樹蔭に涼を取れば何處よりとなく芳香馥郁として來る茲に於て吾身の遠く異域にあるを知れり

公園を逍遙する事數時道を失なひて他人の庭園に入り這々の體にて驅け出し漸くにして我々の馬車を見出し之を御して更よ「ワイキキ」の望月旅館に到りこゝより馬車を還へす賃料八弗五十仙則ち我十七圓にして僅々四時間計り三人の乗合としては非常の高價ならずや、而かも是れ此邊の物價相當なりと懷中甚だ心元なし

望月旅館は「ワイキキ」の海岸に在り風景絶佳「ホノル、」一等の日本旅館にして營業主は廣島人なり、大抵の日本旅客はこゝに一泊し久し振りの日本料理を味ふとかや、余等も

亦日本料理を飽食せんが爲め來れり何はなく共先づ日本茶の出花を求め次て日本流の浴槽に積もれる垢を落し「チ、ミ」の浴衣に兵古帶姿となり、緑滴たる芝生の上に横はりつゝ「ハイカラ」流に寄せては返へす太平洋の浪打際を眺めながら布哇名産の水瓜を味ひたる其甘さ快さは何に譬へんものもなし、須臾にして雨降る個は此土地の例にして日々數回必ず降雨あり之れが爲め流石熱帯の地も甚だ暑からず米人呼で太平洋上の極樂と云ふも宜なり旅館に玉突臺あり久し振に試む、同船の人、内貴、木村、佐藤、大塚の諸氏次で來る依て共に夕食の膳に就き盛に日本酒を仰ぎ、鯉の刺身鱒の酢漬、海老の具足羹、白瓜の奈良漬皆可ならざるはなく出來立の米飯何時の間に咽喉を通りしやら、布哇名産の「バインアップル」大き頭顱の如く新鮮にして多汁、今迄罐詰の外知らぬ余等には何とも云へぬ甘さあり此味如何にしてか故國の人に頒ちたし、諸君よして若し此文を讀み居る内唾が出たれば此紙よ接吻せられよ幾分の味はあるべし

午後八時旅館を辭し更よ馬車を雇ひ船に還へる、個は明朝六時本船出帆すべきが故船に



あるの安全なるを思へばなり、旅館の支拂總計十五弗即ち我三十圓馬車賃又三弗(六圓) 茲に於て倍々物價の高値なるに驚けり、船に歸りしも碇泊中の暑さ苦しく九時過又徒歩して「ホノル」の町を素見せり流石熱鬧の町も夜に入りては多く門を閉じ所々の飲食店には勞働者らしき者入込み、大聲放話し三々五々相列りて何か分からぬ歌を謳ひ行くあり、烟草店の横手電氣燈の影暗き所は白人の醜業婦らしきもの二三、喃々として語合ひ行人を止めんとし、港口に近き監獄署に隣れる魔窟は電氣燈の光最も明にして凡ての罪惡茲より其源を發す、思ふに布哇の地尙ほ未だ文明の輸入最中にして諸事創設の時代なり、道路警察の如きは最も不備にして我國に及ばざる事遠く、夜間街燈の設け少なくして暗さに迷ふ旅客は突然襲ひ來る無燈の馬車は出合ひて何れへ避けんかと戸惑ひ水道普請の爲め掘り返へしたる凹路の水潦に飛び込む杯、迷惑千萬新開地の面目茲に至て明なり

午後十一時頃船に歸る途に日本酒を買ふ三合入瓶三本、一弗即ち二圓なり、品質は中是

れでも中々有難し

七月十九日 晴、汽船中

午前六時船「ホノル」港を出帆す布哇よりの乗客四十餘名多くは布哇の合の子にして日本人も亦十名許りあり、棧橋に見送るもの送らるゝもの皆花輪を首に飾り色黒く顔醜き土人の花賣其間を奔走し首又は肩に幾百の花を着く甚だ美觀なり

船漸く東北に進み數十哩にして右に布哇島を見る

七月二十日 晴、汽船中

此日頗る風荒く船暈者多し而かも余は最早船中より馴る日本人何れも元氣よし

上海生れの米國宣教師の子、年十二歳最も心安くなれり、同船の支那人之を利用して通譯となし或は又代書を依頼す、先生大に得意屢々其用を使す就て聞くに未だ小學校に入らず入學の爲め米國に歸るなり而かも其讀書力の進歩せるには驚けり

七月廿一日 晴、汽船中



此日波最も静かにして神戸出帆以來の好天氣なり、別に降雨の日とはなけれ共常に曇り勝ちよて殆んど眞の晴天なるものを見ず、風吹き波立つ事多く太平洋の天氣は常に此くの加きかと思ひしを、今日こそ始めて眞の晴天あるを知れり

此夜「アツバー、デツキ」に於て「ダンス」の催あり布哇より乗船したる合の子連「ウワイオリン」様のものを振り鳴らし囃し立つる様「オカシク」男女相擁して跳り廻る、其樂は夜を徹するも盡きじと思はる

七月廿二日 晴、汽船中

前日と同じく波平なり、夕陽西に春かんとして満天紅を漲らす、恰かも我聯隊旗を打擴げたる如し遠く一大湖水あり、小島點々奥の松島に似たり、或は又長く湖心に達せんとする半島宛然天の橋立を望むが如く、高樓天に沖し結構の莊嚴を思はしむるもの是や安藝の嚴島にも比せんか、滿々たる太平洋の水眼界遮るものなくして忽ち此好景に接す、雲と水と陽光の致す所天亦風流なる哉、思ふに此日必ず我征露の軍に大捷あらん?

七月廿三日 晴、汽船中

布哇を出で、より五日船東北に進みて氣候漸く寒し、今朝寒暖計六十四度を示す、夏服を脱き間服に改む

七月廿四日 晴、汽船中

此日寒く朝八時寒暖計六十一度を示す風荒く「アツバー、デツキ」を洗ふ船暈者あり  
午前十時頃右舷遙かに巨鯨の游泳するを見る

七月二十五日 雨、後晴、桑港着

早起正面より近く米國の陸地を見る、乗客皆踊躍す午前七時船「ゴールデンゲート」に進む、  
(ゴールデンゲートは桑港の入口にして廣さ約半哩水深三十五尋あり地震の結果現在の如き良港となりたる由、西曆千八百四十八年「ゼチラル、フレモント」氏の命名せし所なりと云ふ)

船漸く港内に進み右に砲臺を見左に燈明臺を望む、之れを過ぐれば眼界更に廣く左側より



軍港あり數隻の巨艦茲に碇泊す、正面に監獄あり右手よ桑港の市街を望む、大厦高樓の櫛比せる様始めて見たる吾等の目には只夢心地なり、船中よて檢疫あり午前十一時上陸す布哇よりの航程二千八十哩なり、天亦漸く霽る

(桑港略記)

桑港は太平洋岸に於ける米國第一の港にして、其市街は北面の山腹に設けらる、面積二萬六千六百八十一エーカーの敷地を有し人口三十四萬二千人(西曆千九百年の調査に係る)内支那人二萬四千六百人日本人二萬人(内桑港市中に在る者五千人)あり街衢壯麗にして建物多く四階以上十階二十階に及ぶものあり電車「ケーブルカー」縦横に走り、般盛目を驚かすべし特に注意すべきは市街の組織整然一町四方を百番地に分ち道の兩側を番地の奇數と偶數に區別す、故に何町何番地と云へば直ちよ其距離を知り且左右何れの側に在るかを知る甚だ便利なり、氣候は一年中平均五十八度夏服冬服の別なく、間服にては稍寒き心地す七八月の頃には霧多くして午前九時頃迄と夜間は小雨

の如く衣袂を濕す

渡航獎勵俱樂部代理人守岡氏の案内を得てモンゴメリ街「オクシデンタル、ホテル」に投宿す、此「ホテル」は四層の石造建物にして室數三百以上あり、「エレベーター」に依り三階第二百三十六號室に入る(亞米利加の旅宿は大に日本のものと趣を異にし「ユーロピアン、プラン」さて只室を貸すものあり、食事は客人勝手に其ホテルの食堂又は他の飲食店にてなす故に其室よは寢所、應接室、便所、洗面所等の備へあるのみにて茶一椀持來るにあらず呼ばざれば「ボーイ」も來らず一寸不自由の様なれども結局氣樂なり、余も亦「ユーロピアン、プラン」を取りたり)

午後二時波止場に行き税關の検査を受く、此國は保護税國とて荷物の検査甚だ嚴重總ての手荷物を仔細に検査し假りにも商品と認むべき品はビシ／＼と課税するなり、午後三時事無く通過す

午後四時日米新聞社に米田實氏を訪ふ、在らず、途次「マーケット」街を過ぐ始めて米國



繁華の衢を獨り行く事とて只ウロ／＼見るもの皆珍らしく電氣車「ケーブルカー」の往復頻繁にして道を横切るに非常の注意をしながらも尙通行人に突當り「エキス、キュース、ミー」をノベツに並へながら匆忙逃げ行く始末、宛然赤毛布の江戸見物なり（マーケット街は幅百二十呎桑港中第一の通路にして大小の商賈茲に集まれり市内各所より發する電車ケーブルカー皆此町を中心に往復するを以て甚だ混雜なり）

夜守岡氏と共に電信會社に行く、此國には電信電話共に皆民業に屬し之を取扱ふ會社數十あり、受附は妙齡の婦人にして如才なく愛嬌を振りまくこと、日本の役人的なることはマルデ反對なり

夜間寒暖計六十三度霧降ること夥し

七月二十六日 晴、桑港滞在

渡邊氏の案内に依り「ゴルデン、ゲート、パーク」を訪ふ路を「マーケット」街に取り始めて「ケーブル、カー」に乗る「ケーブル、カー」は電氣車類似のものにして空中に電線無く軌道

の中央に一條の細溝あり、其下を走る「ケーブル」即ち鐵線に客車の一部を繋ぎ走らしむる仕掛にして「ケーブル」は終點に於て電氣力に依り運轉せらる、故に桑港の如き土地に高低ある所と雖ども之を上下するは少しも異條なく、上ると下るとに速力の差なく危険もなし、思ふに東京の山の手邊、坂多き處には必らずこの式を採るべきものならん、賃金僅かに五仙而かも道の遠近に依り差なし

「ゴルデン、ゲート、パーク」は面積千十三エーカーを有する大公園にして博物館、植物園音樂堂、等其内に在り規模甚だ宏大日本に其比を見ず、園中博物館を見る館は西曆千八百九十五年に開かれたる「ミッドウインター」博覽會の遺物にして古風の建築入口に大なる二個の「スヒンクス」あり館内陳列する所「ナポレオン」二世の椅子及び寢臺「ワシントン」の寢臺及び米國獨立の宣言書、埃及の「ミイラ」は歴史上好箇の材料手足及び首等には尙ほ皮肉の遺殘せるものあり亞非利加土人の寄習を見るべし、更に轉じて植物園に入る園は最も能く整頓せるもの、一にして西曆千八百八十三年の再築に係り長さ二百五十



吹幅六十呎高さ五十八呎の建物全部ガラス張なり珍樹寄木網羅せざるはなく日本よりも大隈伯爵寄贈のもの多し、次に音楽堂を見る是亦非常に大規模のものよして石造圓形の建物響學の理に合ひ、之を圍むに無數の「ベンチ」あり聴衆に備ふ土曜日曜の午後は來りて茲に美妙の音楽を聴くもの萬を以て數ふと云ふ、此他園内には日本風の茶室庭園あれども見るよ足らず「グランド」「ガーヒールド」の銅像等枚舉に遑あらず更に進んで「クリツフ、ハウス」を訪ふ、太平洋岸の崖上よ設けられたる望樓にして直下よ大巖あり、海豹之よ遊ぶ遠く望めば只岩上の斑點其數多くして海豹とは思はれざる位なり此處より「ゴールデンゲート」を望む白砂相連りて須磨舞子の濱に似たり只青松なきを恨みとす

「クリツフ、ハウス」の傍に「ストロ、ヘイト、パーク」あり「アドルフ、ストロ」氏の私有庭園にして公衆の觀覽を許す、入りて之を見る、清掃甚だ行届き車道人道一々其町名を記す、大なる植物園あり白紫紅綠百花爛熳の春に似たり二臺の大なる獅子像は嚴として鐵

門を護り犬、鹿、小兒、等の大理石像は園内所々に散在して其數を知らず、小丘の上「クリツフ、ハウス」を直下に見る所、大砲二門彈丸數十個を置き砲臺の用に供ふ、如何に米國なればとて之が一個人の私物なりとは貧乏人の吾等唯驚くの外なし

更らよ其傍らなる「ストロ、バス」及「ミュージヤム」を訪ふ此海水浴場は米國第一と稱せられ浴槽の長さ四百九十九呎幅二百五十四呎水量百八十萬四千ガロンを容るべし、浴槽の上觀棚あり七千四百人の觀客を容る、外に深さ四呎より十呎迄の浴槽數個何れもその深度を表示し冷浴温浴客の撰ぶよ任す、傍らに調度供給所あり茲に用意を調へ浴を採る、妙齡の佳人あり、可憐の小兒あり、嬉々として水中に遊び特に設けたる段上よりスベリ落つる抔動作甚だ活潑なり、場内温度高くして熱帶の植物を培養し、太平洋中の珍魚寄獸を飼育し浴客の觀賞に供す、中に「ペンバットラー」と稱する海獅子の類あり(剝製)重サ七千ポンド一見恐るべきものなり、又東洋風俗と題し日本の人力車紫式部小野道風杯の人形を陳列す、浴衣を裾長よ着流したるチョン鬚の男子跣足の儘よて人力車を曳



く甚だ異様のものあり、悲哉米國人の目には未だ我が日本の實情を解せざるなり  
 瀛車よ搭じて歸路に就く此瀛車蒸氣力を用ゆれども客車は電車に同じく、賃金僅かに五  
 仙軌道よ圍ひ無く普通の道路よ接し別に「ステーション」の設けなければ何處にても昇降  
 自在なり瀛關車にては進行中常にガラン／＼と鈴を鳴らし行人の注意を引く様、甚だ野  
 蠻的にて殊に危険と思はるゝも行人は一向平氣なり、沿道の海岸甚だ風致に富み附近風  
 車の設多し

歸途「ブロードウエー」よ羽室巳之吉氏を訪ふ、在らず、歸宿の後更に内貴氏の一行と共に  
 に松方幸二郎氏を「パレース、ホテル」に訪ふ（パレース、ホテルは桑港第一の旅館にして  
 七層の高樓五個の「エレベーター」を備へ建坪「二エーカー」半建築費七百萬圓と云ふ室數  
 八百五十中央に運動場ありガラス天井を張り熱帶植物を陳列す裝飾の美、器物の整頓と  
 相待て壯麗實に「パレース」の名に背かずと云ふべし）

此夜「デューボン」街大黒屋に日本料理を味ふ、久し振りにて刺身と淺漬を得珍味に舌鼓

を打つ、只怨むらくは其刺身鯛よあらずして「シーボウ」と云ふ太平洋の獲物なるを、但  
 し味は可なり

此夜又内貴氏の一行と共に「チポリ」の「オペラ、ハウス」を見る此建物は圓形に作られた  
 る二層樓よして、觀客千八百人を容ると云ふ、舞臺は日本の芝居小屋と同様なれども背  
 部を圓形よなし音聲の透徹を計る、囃し方は即ち樂隊にして日本なれば土間のカブリ附  
 と云ふ所に居列び居り、樂長の指揮に依り奏樂す、二階棧敷は日本の如く一列にあらず  
 數段に分れ諸方に在り、正面の壁棧敷と云ふ所にも明瞭に見且聞く事を得るなり、余  
 等の行きたる時は丁度幕明の間よて其數凡そ三十五六人もあらんと思はるゝ美人各種異  
 様の装をなし舞臺に列び奏樂につれて踊り、節面白く歌ふ杯様々の滑稽あり、日本には  
 一寸此類のものを見ず、強て求むれば彼の女ヘラ／＼伊勢音頭の如きものか、而かも大  
 よ品格を異にし盛装したる紳士貴女敢て一言の聲を發するものなく靜肅よ之を見る、余  
 の目には只奇麗なるのみ一向無趣味なり



夜中街上を行くに脚下光を發す、個は即ち道路の一部に厚硝子を嵌めたるものよして晝間異様の裝飾なりと考へたるもの、地下室に光を探らんが爲めなり桑港の家屋は多く地下室を有し庖厨等の用事は大抵此にて扱はる、殊に散髪床飲食店の類は地下に在るもの多し

商店の重なるものは夜間營業をなさず、只商品を陳列するのみ、烟草屋、酒屋、飲食店の類は時間に拘はらず開店せり、此等の小賣店は皆「カツシユ、レジスター」と稱する一種の金庫を備へ賣上金を其内に投入すれば同時に其金額を表示する仕掛あり故に容易く賣揚を誤魔化すべからず、此の器械は小賣店よ最も重寶のものにして日本にも大阪商品陳列所よ其見本ありしと覺ゆ此地には凡ての小賣店皆之を用ふ

「マーケット」街の夜景は大いに見るべし數萬の電燈を客氣もなく點し列ねたる各商店の「イルミネーション」或ひは高く或は低く縦横に疾馳する電車、馬車「ケーブル、カー」の絶間なく「サイド、ウォーク」(桑港の町は人道と車道の別あり中央を車道とし兩側を人道

とす人道は「ペーブメント」と稱する「セメント」のタ、キにして雨天と雖も道のぬかる恐れなし)を公園に急ぐ男女老幼新聞賣子や道端の物賣賑かなる事到底銀座の比よあらず日本料理の在る「デューボン」街と云ふは支那人街に近く此邊夜景亦見るべしと雖も深更に及べば甚だ物騒にして往々米人との間に争闘ありと聞く、東洋人排斥の感情今尙ほ止まぬものと見ゆ

七月二十七日 快晴、桑港出發

此日は稀なる快晴にして霧なく渡米后始めて汗を發す

「マーケット」街を過ぎシチーホール(市役所)を見る總敷地四エーカー建築費六百萬弗之を建つるに二十年の日子を要したりとぞ、石造の大建物なり閉鎖後なりしを以て内部を見ざりしは残念なり

「コーンビルヂング」(此建物千八百九十七年の建築に係り高さ三百呎内部大理石を以て疊み、二百七十二室を有する十六階の石造家屋なり)に宮川益次氏を訪ふ、氏は米國法



學士よして米人の辯護士數名を配下に置き法律事務所を開けり、此地日本人多く内外交渉の紛議は多く同氏の手を経ると云ふ、同氏の案内を得て裁判所を見る

裁判所(ホール、オフ、ヂャスチース)は「ボーツマウス、スクエア」に在り元と一大賭博場の跡よして、今は警察署、豫審廷、刑事裁判所、監獄署、共此内に在り

先づ「ボリス、コート」を見る恰も我國の區裁判所に同じく判事「フリッツ」氏檢事書記の立會を以て被告人を訊問す、辯護人あり辯論の眞最中、傍聽席より一人の男ツカ〜と判事の席に行き何か訴ふる所あり判事水を呑みながら之を聞く思ふに餘談なるべし、不作法千萬法廷の威嚴とも云ふべきもの更になし、次に「シユープレム、コート」を見る判事「ラムラー」氏裁判長となり十二の陪審員判事席の傍に坐を占む、禿頭の檢事下段の席に在りて辯護士及び當事者と對坐したる儘電車衝突事件の過失責任に關する論告をなし陪審員の撰擧を行ふ陪審員は各擧手して陪審員たる事の諾否を述べ或は其席に留まり、或ひは圍を排して去る辯護人「マフィー」氏足を組みたる儘判事に向て陳辯する所あり陪

審員の撰任大に手間取り遂に結果を見ずして去る

日本領事館を訪ふ領事館は「カルホルニヤ」街に面する六層樓の四階に在る一室にして、金色菊の御紋章あるよ依り其れと知るべきも、下は雜貨店に飲食店隣室は醫師に法律事務所其他種々雜多の商賈あり、一軒の家の何十分の一、ホンの一隅を領事館よ充てたるなり夫れでも家賃は一ヶ月六十五弗豈驚くべからずや、領事館にて目下辻馬車の「ストライキ」中なる由を聞く、ソー云へば成程割合に馬車の少なき様に思はる尙西瓜の「トラスト」あり靴磨きの「ボーイコット」あり米國流の「ユニオン」組織何事も皆組合の範圍を脱せざるは大に注目すべき所ならん

午後六時「フェリーデポット」より「セントルイ」よ向ふ、此停車場は千八百九十六年の建築に係り長さ六百五十九呎幅百五十六呎石造の大廈なり、桑港より東部諸方への瀛車皆茲より發す其數幾許なるを知らず、入口數多あり殆んど眩目する計りなり、場内よ花賣あり客の求めに應ず、之を購ひ鐵門を入れは「フェリー、ボート」あり之に塔して「オーク



ランド」は行く、蓋し桑港の地は狭き入江を隔て、大陸と相對するが故に何れに行くにも必らず此入江を渡らざるべからず「オークランド」は即ち其對岸なり三十分間よして船「オークランド」に着す、茲に於て「サウサン、パシフィック」會社の「イースタン、エキスプレス」第六號と云ふ列車の「ブルマン、ドローイング、カー」に乗る（此國鐵道の數幾何なるやを知らず米大陸を蜘蛛の巣を張りたらん如く縦横を往來する者、同一方向は行くにも幾十の線路あり餘程の注意なくは乗り誤るべし又何れの會社にも所有の客車外に必らず「ブルマン」會社の寢臺車及び特等車を付屬す「ドローイング、カー」は即ち此特等車よして結構壯麗一室二個の寢臺あり、特別の便所洗面所を備へ金色燦爛たる天井、彫刻ある厚硝子を以て蔽ひ非常に贅澤なるものなり此は此國普通の一等瀟車にては寢臺もなく便所も數十人共通にて甚だ不自由なり、紳士も勞働者も押しなべて皆一等瀟車に乗るを普通とするが故に大抵上流の人は普通瀟車を買ふ外に必らず「ブルマン、カー」を買ふなり）

午後六時三十分瀟車「オークランド」を發す我國の如く別は發車の合圖なく、時間來れば直ちに動き出すなり、沿道各「ステーション」には其驛名を記するも別は其名を呼ばず又「プラットフォーム」もなし着發共に笛を吹かざれば何が何やら分からずに行く、廣軌鐵道（我國の鐵道よりは客車の幅二呎斗り廣し）の速力甚だ早く清潔なる食堂車は珍味を食ばりつゝ満月を東天に眺めながら行く、快云ふべからず

七月二十八日 晴、瀟車中

午前十時「レノ」停車場に着す、茲は山間の小都會よして大學もありと聞く、是より山間を行く雪除の設あり長き墜道の内を行くが如し

此日正午寒暖計九十度より上り午後空氣乾燥の爲め汗出てす、桑港にては最高六十二度なりしに忽ち此變化あり暑さ大に加はる

此日は終日平原の内を行く大陸の廣野樹木もなく水もなく滿目只草あるのみ、而かも尙ほ人家あり如何にして暮すやらん



七月廿九日 晴、瀛車中

午前六時寒暖計六十二度より下る車窓より右に「サルト、レーキ」の一端を見る午前八時二十分「オグデン」に着す朝食を喫せんとして停車場構内の飲食店に入る田舎の給仕女サツパリと言語通せず、食事を注文するに「ビル、フェア」「メニュー」「フェアテーブル」杯色々手を替へ品を代へて話せご一向分からぬ模様なり終には筆記して見せたれども字を知らぬ女とて詮方なくヨイ加減のものを見計らひ漸く朝食を濟ませヤレヤレと安心はしたるもの、朝食は一弗の定めなりと聞きコレハくと二度喫驚矢張コチラが悪しかりしなり茲よりは「ユニオン、パシフィック」會社の瀛車に乗替なり瀛車中にて「オグデン、エキザミナー」と云ふ新聞を買ふ曩の日余が日記を托送したる瀛船「コレア」號は幸に露艦の目に留まらず横濱へ安着したる由の東京電報あり大よ安心せり

七月三十日 晴、瀛車中

此日「ノース、ブラット」停車場にて買ひたる新聞「オマハ、イブニング」に旅順陥落の報を

載す、蓋し訛傳ならん、午後六時「オマハ」に着し「ワバツシユ」線に乗替たり

茲より「セントルイ」迄は僅か一夜の事とて寢臺車を買はず普通の一等車に乗れば寢るにも寢られず二弗計りの節儉甚だ不愉快なり、殊に食堂車ある積よて「オハマ」にては食事をなさざりしに此瀛車は「ダイニング、カー」を付せずと聞き遽かに腹の虫が承知せず、同行の大塚氏が持参して今迄ヒヤカシの種なりし「パン」を取出し甘納豆を肴よ一夜の餓を凌ぎたるは如何にも赤毛布なりし

七月三十一日 晴、聖路易着

午前七時三十分「セントルイ」市「ユニオン」停車場に着す桑港より鐵道二千二百四十七哩なり、豫め電報し置きたるよ上田駿一郎氏の迎ひ見えず同行四人マゴくしながら漸く飲食店より入り朝食を濟ませ馬車を雇ひ博覽會場に行く、其目的は渡航獎勵俱樂部を尋ね宿を定めん爲めなりしと生憎此日は日曜の事とて博覽會は閉せり、漸くよして番人に聞き合せ渡航獎勵俱樂部に行き横濱館に投宿す、跡よて聞けば上田氏は電報に依り「ワバシ



ユ」の停車場に迎への爲め行かれたる由、何れの「ステーション」と指定せざりしはコチラ  
 の誤なりた負に馬車賃一人前三弗五十仙目の玉の飛出る程の高さ其代りには「サンデー」  
 の博覽會各門閉して人影もなき場内をグル／＼と驅け廻り明日よりの見物に對する下稽  
 古をなしたり

午後五時上田氏の案内を得て田島、八木の兩氏と共に「デルマーガーデン」に行く公園と  
 云へども甚だ殺風景よして興行物の小家軒を並ぶ、宛然淺草の奥山大阪の千日前に似た  
 り、更に「フォーレストパーク」を訪ふ此公園は一部を博覽會の敷地に供せられたるも尙  
 千「エーカー」もあらんか、一哩半平方に渉る大公園綠樹鬱蒼たる内を行けば一大池あり  
 中央に金碧燦たる王冠形の音樂堂あり、回らすに紅白紫綠の彩花を以てし高さ五丈餘の  
 噴泉其前に懸り分れて數條の瀑となり時ならぬ驟雨を降らす、風のマニ／＼送り來る囁  
 曉の音樂心耳をすませは將に登仙の趣あり、輕裝の佳人白衣を夕風に翻し三々五々綠蔭  
 の内を逍遙す、忽ちよして善美を盡くしたる馬車數十池の周圍に集まり、盛裝の貴女紳

士、可憐の小兒を携ふるもの、内は黒奴の夫婦あり、喃喃私語す米人家庭の快樂茲に至  
 りて見るべし

(聖路易略記)

聖路易市は「ミズリー」州の首府よして合衆國第四の都會なり、人口七十五萬人「ミスシ  
 ヅビー」の長流其東を流れ水運の便あり麥酒及び煙草の製造盛にして「ダウン、タウン」  
 と稱する部分は人家稠密甚だ殷盛なり、電車は市の各所より發し四通八達中央に「フォ  
 ーレスト」公園あり「タワーグローブ」公園「オフアールン」公園は四時に宜しく博覽會の  
 爲め特に設けたる「ユニオン」停車場は石造四階建の大厦内部大理石を以て疊み二個の  
 「エレベーター」あり、茲に集まる鐵道の數三十二よして一時に三萬人を吞吐すべし、氣  
 候は最高八十度内外と云ふも中々暑し此地は元と附近の諸州と共に佛國の領地たりし  
 が西曆千八百三年四月三十日、時の米國大統領「ゼファアーンソン」氏の發意に依り金一千  
 二百萬弗の代價を以て佛國より買收したるものにして、今や恰かも其百年目に相當す



るを以て之れが紀念の爲め五千萬弗の費用を抛ち萬國博覽會を開設したるなり)  
八月一日 晴、聖路易滞在

早起屋外よ出づ、余の宿りたる「バルトマー」街は博覽會場に近き「アツプ、タウン」と稱する部分に屬し閑靜の町なり、此邊の家屋は皆道路より四五間奥まりたる處ありて其表は即ち庭園なり朝夕茲に涼を取る夕顔棚の下涼み「テ、ラ」を纏ふ「テ、」はなければ「ハンモック」に遊ぶ腕白の小兒あり、丁度向ひは木造家屋の建築中よて數名の大工左官あり頻りよ屋根を葺く板屋根の上に「シート」様の黒布を張り「スレート」を列べ釘にて打ち付く手際甚だよし、暫く見る間よ氷屋の馬車來る二三貫目の大塊を戸々に配達し去れば更に又洗濯屋の馬車來る個は毎朝馬車にて注文を聞き廻るなり  
午前九時博覽會場に到る

博覽會場は敷地千二百四十「エーカー」に涉り幅一哩半長さ二哩と云ふ、三百有餘の建物其内八個の主なる陳列所あり、正門より入れば廣漠たる芝生の内高さ百尺を算する「ルイ

ジャナ」購買紀念碑あり遙かの正面に有名なる「カスケード」を見る之を中心扇を擴げたらん如く器械館、電氣館、教育館、鑛業館、リベラルアート、パブリックインダストリー、マニヘクチュア心藝館、工藝館、工業館、通運館の大建物あり、清澄の池水其間を廻り異様の「ボート」を浮ぶ「ツエスチバル、ホール」は巍然として高く兩翼を張り、後ろよ美術館を控へ遙か西手よ日本館あり、農業館は更に遠く合衆國政府館は左に、博覽會事務局は右に、各其壯大を競ひ宇内各國の特色を集めたる「バイク」は正門を左に一大街衢をなす、一望三嘆呆然として行く所を知らず  
兎も角も先づ日本館に至る小高さ所に設けられたる白木造りの大門、桐の紋章を刻み八字に開かれたる所を入れれば左に臺灣の茶店あり「ウーロン、チー」の文字明かに讀まるは先づ心強し次に金閣寺を摸したる茶店あり紅柄塗の細欄干、鉞力張りの釘隠し杯之れが金閣寺とはどうしても思へず浴衣がけの醜業婦然たるもの一碗十仙の緑茶を運ぶは外人の目よ新なるべきも個はせめて紫袴でも穿かせたきものなり、少しく離れて紫宸殿に擬したる建物あり、中に日本の古代風俗を摸したる人形あり附近のもの皆甚だ粗末にし



て、畏れ多くも之れが宮城の一部なりとは如何にして云はるべきぞ、茲に至りて日本財政の裕ならざるを愁ひ、當局者の注意深からざるを怨む、傍らに日本事務局あり、出品協會あり、日本流の庭園、榭亭、瓜や茄子の畑數歩あり物珍らしげに眺め居る外國の田舎者多きは之も戰勝の餘徳とや云はまし、出品協會に入り上田氏に會し「アドミニストレーション」に行く、此建物は元と「ワシントン」大學の所有にして敷地甚だ廣く煉瓦石造三階建の家屋數棟あり博覽會期中事務所に入れたるものにして其借賃五十萬弗と云ふ、茲よて入場寫眞を撮る、電氣仕掛の早取寫眞忽ちよして番號付きの色男を得たり轉じて「バイク」に到る、茲は各國の賣店とも云ふべき所よして諸種の興行物飲食店軒を並べ印度人あり「エスキモ」あり南洋の土人亞弗利加の黒奴千差萬別の人類館を見るが如く、異装して高聲に客を呼ぶ所千日前に同じ、日本の興行は藝妓の手踊と云ふ觸出しなれども藝妓やら何やら分りたるものにあらず、十五六より二十才位迄の女唐縮緬の友染着物よ「ボテカヅラ」然たる鬘を結び冬瓜の夕立宜敷と云ふ御面相を舞臺の上に陳列した

る處、殆んど見られたものでなし、其れでも萬里の波濤を越へて態々此地に生恥を曝しよ來りし勇氣は感心なり、新聞に依れば色男と駢落ちしたる不心得者もある由醜毒を流さずんば幸なり、何處かの山門を摸したりと云ふ赤塗の大門、金色の昇龍を貼りたる處確かに芝居の道具建なり、此門を潜れば中には日本の古器物を商ふ者花簪を製造する者達塵落しに吹屋店、そばや、散髮床、盆栽の類よ至る迄客の求めに應ず日本以來の知合なる床屋、中野の店に就き散髮をなさしむ料金五十仙而かも非常の人氣にて一日少なくとも十五六人の來客ある由金儲は實に米國なる哉

八月二日 晴、聖路易滞在

此日は市中を巡覽せんとして先づ「ダウン、タウン」に到り「イーズ」の橋を見る、此橋は「ミシシッピ」河よ架したる有名の橋にして全長五六町もあらんか橋欄は粗末なれども橋臺の構造は甚だ立派なり、之を渉るに橋賃五仙を徴す河の兩側に沿ふて鐵道あり汽車を通ず、其上よ高架鐵道あり又其上を横切り橋裏に沿ふて走る鐵道あり、汽車の往復甚だ



頻繁橋上より望めば三段の鐵道、交互に瀛車を通じ其下を汽船行く、兩側に在る宏大の物  
建荷揚場の巧妙なる仕掛等皆一見の價値あり

「マーチャント、ラクレード、バンク」に行き爲替金を受取る、銀行の所在分り兼ねたる故  
行人に尋ねたる處、三十計りの紳士親切にも二三丁付き添ひ來れり此國の人、道を問へ  
ば何事を措きても親切に教へ呉るゝのみならず少しウロ／＼して道に立てば必ず道を尋  
ぬるやと問ふ時には少し有難迷惑の事あり不知案内の所も地圖と磁石さへ持てば更に心  
配なく自由な駈け廻り得るは全く此に蔭なり

「ブロードウエー」の靴屋に出來合の靴を買ふ、此町は恰かも桑港の「マーケット」街に同  
じく大小の商賈軒を並べ電車の往復頻繁にして常に雜沓す、靴店は表々數百の見本を陳  
列し之れを入れれば何萬とも知れぬ出來合の靴、棚に在り澤山の椅子を置き並べ觀客の用  
に供へ足に合ふ迄は何遍にても取替へ來る、故に如何なる足にても出來合靴に合はぬと  
云ふは無し、殊に其應接の鄭重なる事此國商人の客扱は確かに我國商人の學ぶべき所な

らん

紐育生命保險會社支店に「ベーカー」氏を訪ふ其室は「ミヅリー、トラスト、コンパニー」の  
建物に入りて「エレベーター」を上りたる三階の一隅に在り折節執務中にして社員皆必死  
の勉強、脇目も振らず机に向ひて筆記する者計算する者、電話を掛ける者、聞く者、殆  
んど戦場の有様、其多忙なる事目も廻る計り、余がベーカー氏と話し中よも氏は立たり  
居たり長居は氣の毒なり、此の國何れの「オヒース」は行くも人數は甚だ少なくして皆一  
生懸命、日本流の「ノラクラ」を見ず是亦學ぶべき所なり

「ベーカー」氏の案内を得て裁判所を見る、午後二時後なりし爲め開延なく只立派なる「ド  
ーム」と書記室を見る別に記すべき事なし

「ミヅリー、ボタニカル、ガーデン」を見る、甚だ廣き植物園にて桑港の分よりは一層完全  
なり、米人某、何時の間にかやら、道連れとなり、一々説明を與へ呉れ、日露戦争の話を  
なす、何處までも顔さへ見れば此戦争話を持ち掛けられ何故戦争を行かぬか杯問はるゝ



所、米人は日本を充分に解せず人民皆戦争に出でたるが如く思へり  
 「タワーグロブ」公園を訪ふ門を入りてロハ臺に腰を下ろせば、ブラ〜と歩み來る巡  
 査、物珍らしげに余の手帖を眺め居り、日本人なりやと尋ね、然りと答ふれば茲は暑し  
 涼しき所を案内せんとして音樂堂の前に導く、途上蓮池を指さし蓮の大きを説明する杯、  
 是れ亦親切なり

音樂堂の前、綠蔭涼しき所にて頻りに日記を認め居りたるに、後の椅子に在りし米人、  
 新聞を手よしなから近付き來り、日露戦争の話しを持ち掛け頻りに日本ビークを振り廻  
 はす、此くの如き事前後幾回随分ウルサキ時もあり、歸途「グラント」街の「ドラッグ」に  
 飲料を採る此地何れの町も角よは大抵「ドラッグ」あり「ドラッグ」は其名の如く藥舖な  
 れども烟草もあり小間物もあり「アイスクリーム」「曹達水」「レモン」、糖蜜、等の飲料を  
 吞ます爲め「バー」を設け椅子を列べ、扇風器を置く甚だ妙なり、又辻角に自働水賣器あり  
 圓筒形の水入れの穴に一仙の銅貨を投すれば、水口に受けたる「コップ」に丁度一杯の水

水出づ、輕便の仕掛日本にも應用せば可ならん、此夕新聞を見るに前夜市俄古より聖路  
 易行の瀛車「カンカキ」と云ふ停車場附近にて強盜に襲はれ、車掌機關手共一室に押込  
 め置き寢臺車に在りし七十五人の乗客を脅かし、數萬弗の金錢寶石類を強取したる由物  
 騒なる事なり

此地は博覽會の爲め諸物價大に昂騰したる由、家賃も甚だ高く、余の宿したる横濱館は  
 僅かに三十坪三階建の小家なれども一ヶ月家賃金百五十弗を拂ふとぞ、夫れも場所柄に  
 よりては一ヶ月三百弗以上と云ふ驚くべからずや

八月三日 晴、聖路易滞在

午前九時博覽會に行き通運館に入る、此館は費額七十萬弗を要したる最大建物の一にし  
 て長さ一千三百呎幅五百二十五呎あり、此内に敷設したる鐵道の延長四哩に及び、瀛車  
 馬車、瀛船、帆船、自働車、自轉車、三輪車の類凡そ水陸交通の機關は備はらざる無く  
 中にも「バルチモア、エンド、オハイオ」鐵道會社の出品に係る瀛車の沿革は一見人をして



文明の有難味を思はしむ、五右衛門釜の如き瀛關車の縁に立つ垢衣の車掌月給果して何程なりけん危険千萬の感あり、日本逓信省出品、郵便の沿革を示したる人形是亦評判なり、昨年大阪の第五回内國勸業博覽會に見たる者と同じ、川島甚兵衛氏の出品に係る室内裝飾は外人の垂涎する所、大阪商業會議所の出品、刺繡の世界地圖は精巧、平面の水陸模形は日本の港灣を緻密に表示し、小川一眞の名所寫眞、確かに外人の遊心を誘ふべし館の中央に「ベンシルベニヤ」鐵道會社の大瀛關車あり圓經六七丈の内を徐々回轉し以て其運行を示す、其下に線路圖あり出品の意匠感すべし

工業館に入る、此館は長さ二百呎幅五百二十五呎の廣さあり、觀覽の便利を計り内部を數町に區分し各其町名を付し出品を二様に區別す、金石木造の彫刻物、陶磁器類は東洋のもの多く墨西哥の或る地に常滑焼類似の者を産出す其形狀、模様、日本の意匠に出づ就て之を見れば全く日本の陶器師を聘用せるなり、織物類には精巧のもの多く模様織出の器械に感すべき者あり、博覽會の各館を「ハンカチーフ」の模様で織出す手際は殊に見

物にして其數枚を購入したり

此館内に露西亞の出品部あり、高く露西亞の文字を大書しながら柵板のみにて何の陳列もなく齒の抜けたる如く、傍らの米人指して笑ふ、些細の事と雖も一般米人の感情を害するや大なり、日本ビーキの多きは偶然にあらず

安住氏出品の除虫油、蚊いぶし等は此館内に在り、一向見榮をせず清水桂林堂の出品も亦同所にあれども元來此地には蚊と蚤も居らず、甚だ間拔の感あり

場内見る所、防水布の陳列は休憩所を作り、其屋根を防水布にて葺き、噴水を流下せしめ居るは見るから涼しき心地せられ、「ナイフ」「ペン」先き、泉筆等の製造は地金より仕上に至る數十人の分業面白く經濟の理を自得すべし「シンガー」會社の裁縫器械は妙齡の美人數十名鍵形に居並び盛に洋服類を縫ふ、陳列の最も派手なるものなり

此場内に在る大阪高尾氏の出品銅器類は大抵賣切なり、之れは其價割合よ安直なる故にして、元來日本の出品は格外高價なりとの評判あり一向賣れず、夫れも其筈柳行李一個



内地よては僅か二圓位の品物が茲にては六弗即ち十二圓なり、餘り暴利を貪ぼるにあらずや、而かも寛永通寶や天保錢を一枚二十五仙に賣れるとは随分妙なる所なり

八月四日 晴、聖路易滞在

此日博覽會に入り「バイク」の「クリエーション」を見る、宏大なる「ドーム」を設け周圍の池を掘り緩やか舟を行る、「パノラマ」の各國見物之を過ぐれば「ドーム」の内電氣仕掛を以て眞の暗となし正面に大なる火の玉を顯はす、暫時にして地球の形となり草木之に生じ「エデン」の花園とも云ふべき所は男女二體を現はす、其變化甚だ自然として創世の次第を見る、觀客皆魅せられたるが如く一言の聲なし妙極まれり

出品協會に到る掛員曰く、出品人甚だ狡猾にして猥りに原價を安くし關稅を脱せんと謀るも米國の稅關中々綿密にして往々罰金を課せられ或ひは又花瓶として出品認可を受けたるものに對し食器を出品し、一個として認可を受けながら一打入の箱を送る杯協會の迷惑少なからずと、是等は今後出品人の宜しく注意すべき所なり

此日場内にて盛裝したる貴婦人二三「バナ、」を嚙りツ、行くを見る、此國にては立喰一向よかまはず妙齡の美人が口一杯に菓子類を喰ひながらベチャクチャくとしやべり行く處甚だ色消なり、又正服イカメシク灰色兜形の帽子に銀色の徽章燦爛手に二尺餘の棍棒を携へたる巡查が何するともなくノロリノロリと場内をブラッキ氷店の前に立ちながら世間話しに餘念なき杯、我國に見られぬ絶好の畫題なるべし

八月五日 晴、聖路易滞在

博覽會に行き農林水産館に入る、此館は僅かに長さ六百呎、幅三百呎の小建物なれども米國林業の粹を集めたるもの、建築材料あり、塗料木汁あり、森林保護及び植林に關する林務局の作業を示し、長さ百九十呎、幅三十五呎の大魚槽、數多の淡水魚を集め二個の大池には海獺遊ぶ、館内又獵銃、投網、釣竿の類あり日本の漁具多く散見せらる或る鐵道會社の廣告は輕便なる活動寫真あり、郵便ポスト位の高さよて三方に覗き穴あり中に數百枚の同一なる寫真を重ね電氣仕掛にて速く回轉す之を凝視すれば恰かも一枚



の畫中にある人物が活動せるもの、如く瀛車隧道の中を走り斷崖の上に到り乗客下り來りて釣を垂るゝの景甚だ面白し

「セーロン」館に入り茶を喫す、給仕をなす土人長髪を菴甲の櫛よて留めたる處、一見琉球の人に似たり、此建物は紀元前三百年の昔よりありし佛閣を模したるもの、由にて中に「セーロン」茶の外「ココ、ナット」、椰子、植物性織物の類を陳列す

農業館に到る、此館の前面芝生の上に圓形の植込あり、黄白紫緑の花を以て直径百呎、高さ十五呎の時計を作り中心に木製長さ四十五呎の大小針を置く、此時計は電氣仕掛を以て精確に時を示し三十分毎に鈴を打つ其鈴五千ポンドの重さありて響音二哩の外に聞ゆと云ふ、此館は會場中最大の建物にして長さ千六百呎、幅五百呎面積二十「エークル」あり陳列する所の穀類、綿花、煙草及び農具類は米國農業の發達を示し器械的大農法の利益を門外漢の我等も會得したり

館内飲食店あり、菓物店あり、廣告の手段として硝子箱の内に納めたる罐詰の類を當て

物となすもの、或ひは又「ミルクフード」の廣告に小兒の寫眞を多く陳べ男女兩性の何れかを言當てたる者に百弗の賞金を與へんとするものあり、老若の群衆手にく印刷したる紙片を持ち笑ひながら自己の考を記入す、余も亦戯れに記入し置きたり併し中に判別の付き難き小兒あり外國人よりは到底駄目なり

此夜博覽會の「イルミネーション」を見る、之よ要する電燈の數二十萬個其美麗壯觀名狀すべからず、昨年大阪に開かれたる博覽會の「イルミネーション」は餘りに平調に過ぎたれども此會場には土地に高低あり、建物に起伏あり、最も多角的にして殊に色電燈を用ふ、中央の「カスケード」及び「フェスタバル、ホール」は白色變じて赤色となり、喝采聲裡よ又青色となる美觀言語に絶し涼風徐ろに來る所池水よ舟を浮ぶ誠よ極樂の夢を見る心地なり

八月六日 晴、聖路易滞在

博覽會場に行く、此日は「マヌフェクチュラーズデー」にて工業館非常の賑なり、平常七



萬人内外の入場者此日に限り十三萬七千六百六十人ありしと云ふ、個は此館に入場券引換の福引あり一等五百弗の日本製花瓶を興ふるとぞ何國も同じ人情とて門口に押し合ふ様見物なり

教育館に入る此館は其位置及び建築は最も神髓を凝らしたる由にて中央「カスケード」の北手池水の椽にあり、面積九「エークル」の建物三十五萬弗を費したりと云ふ、出品中盲啞教育の器具及實習は稍注意すべきものなるべく、日本警察協會の出品は係る拘摸、盜賊、殺人犯の寫真兇器、博具、偽造貨幣、兇賊日本左衛門の觸書、舊幕時代の白洲、辻番所、突棒、刺股、鋏、金棒、十手の類に至る迄雜然陳列したるは餘まりに正直過ぎ未開時代のもの、み多きは歐米人を満足せしむるに足るも爲めに誤解を招くの恐れあり此館を出れば即ち有名なる「カスケード」なり、六十五呎の高地に設けたる花園、土耳其摸様の如く植付けたる彩花美しく、之を周りに半圓形をなしたる一大池あり、三條の大瀑布之に懸る、中央の瀧は幅五十呎下るは隨て百六十呎となり左右にあるものは各幅二

十呎、下るに隨て幅五十呎となる壯大の美觀、池中百呎の高さに昇騰する四個の噴水と相待て中天長虹を架す此瀑は池下に三個のポンプあり一分間九萬ガロンの水を頂上に送るべき仕掛なりとぞ

廣き階段を登れば即ち「フェスタバル、ホール」なり、圓形の會堂高さ二百呎、經百九十五呎にして兩翼に張りたる廻廊の終點に三階の建物あり精巧を盡したる「ドーム」は世界最大のものにして其頂上「ミス、ロングマンズ」作「ヴィクトリー」と題する銅像あり内部は三千五百人を入れるべき座席を有し、別に小席あり、日々茲は音樂の會あり、涼風夏を忘れ微妙の音樂を聞きて眠る

「フェスタバル、ホール」の背後に美術館あり、此館は三棟は區分せられ中央の一棟は紀念の爲め永久保存すべきものなりと云ふ、長さ三百四十八呎、幅百六十六呎にして内は米人の製作に係る彫刻及び繪畫を陳列す、左右の二棟は長さ二百四呎、幅四百三十二呎にして外國出品の繪畫彫刻物を陳べたり、我國橋本雅邦氏の山水屏風は豪壯濃艶なる油畫の間



にシヨンポリと立てられ一向見榮せず、各國の精華を蒐めたる油畫を見たる跡よて此  
 織細なる畫を見る、洋食の跡の日本食、喰ひ足らぬは勿論なり、其他日本諸大家の作日  
 本珍らしさよ人目を引かぬはあらねど何分にも七坪八坪或ひは十坪もあるべき大作の  
 内よ疊半枚にも足らぬ織細の畫を置く位置の上より云へば甚だ損なり、獨逸出品の油畫  
 「ウイリヤム」一世の臨終と題するもの何人の筆になりしか素人目よも非常の傑作と思は  
 る、我國の油畫には見るべきものなし、彫刻物としては牙彫、銅像、石膏細工に大理石  
 造等幾千と云ふを知らず、中よも男根丸出しの銅像日本ならば忽ち大問題ならんか此國  
 にては一向平氣、貴婦人大涎にて茲に集まる

心藝館に入る此館は長さ七百五十呎、幅五百廿五呎、建築費四十七萬五千弗を要したり  
 とぞ、館内陳列する所多くは化學的製品、印刷物及び器械の類、中にも寫真機及び寫真  
 製版は足を止めて去るを忘れしめ「ピアノ」「オルガン」の妙音よ集まる婦人、小兒「タ  
 イプライター」の自働なるもの及び之を應用したる加算器あり、數百千萬の文字を顯はす

と同時よ其加算をなし齒輪一轉忽ちよして其和を表示するは商家の重寶嘗て見たる「コ  
 ノラ」嬢の演藝、不審忽ちにして齋る、此他「カッシュユレジスター」あり其構造を示し明  
 滅自在のランプ只一ツの捻鈕にて作用す、自働人形の廣告面白く硝子箱中に在る滑稽の  
 男兩手よ小箱を持ち机上に伏せて又開げば大なる骨子あり、再び伏せれば忽ち其影を失  
 ふ、反復數回宛かも我國の品玉屋よ同じ、茲に集まる男女の田舎者口を開き脊を延ばし  
 て懷中の用心を忘る、個は此國拘摸の患なく數百金の時計も寶石も胸間にブラ下げ行く  
 に何の心配なしとは結構の事なり

電氣館よ入る、此館は教育館と略同一の面積を有し形も同様にて形勝の地を占む、之に  
 入れば電話交換局あり數名の女子耳に受話器を挟み數百の番號を付したる樂筆筒様のも  
 のに對して忙しげよ應答し手早く接續を司る、個は此博覽會場よ於ける電話の本局なり  
 とぞ、之を過ぐれば無線電信あり、X光線あり、數十の婦人一列に机を控へ電燈の球を  
 手にし「アルコールランプ」に醫すもの、硝子切を用ふるもの、炭素線を挿すもの、口を



閉つるもの十有餘人の手を経て茲に電球成る、我國未だ此製造所なし、思ふよ余り六ヶ敷事にばあらざるべし、傍らに電氣菓子製造あり急轉せる磨鉢様の鐵器に砂糖を落せば忽ちにして綿様のものとなり周圍に付着す、其味淡白、纖維狀をなせる淡雪を喰ふが如し、此他有名なる「トーマス、エヂソン」氏の出品は電氣器械の寫眞多く、電寫機（テル、オートグラフ）は最も目新らしきものにして電氣を通したる金屬筆を以て紙片に文字を書けば之と同時に着信局にある紙片に其文字を顯はす、余試に「大日本帝國臣民奥戶善之助の文字を書きたるに正さに好結果を得、傍人問ふて曰く、「ソハ詩歌の類か」と、余其姓名なる旨を答へたるに長き名なりとて呆れ居たるはをかし

合衆國政府館に入る、此館は合衆國政府の直轄にして博覽會所屬のものにあらず、館の周圍に長さ百二十五呎、幅四十五呎の「プラットフォーム」あり三個の階段ありて中央のもの幅百呎之を入れれば直徑百呎の「ドーム」あり羅馬の「パンセオン」を模したるものと云ふ此館、内部の廣さ驚くべく、長さ七百二十二呎、幅百七十五呎屋根裏を鋼鐵にて組合は

せ床上よりの高さ七十呎あり、建築費二十六萬八千弗を要したる由、郵便局の出品に係る郵便氣車は實物其儘の大き、内部の仕組を會得せしめ一時間六十哩の速力にて疾走せる氣車中より「ステーション」との間郵便物を授受すべき郵便袋は昨年大阪の博覽會に見たるものと同じく、沒書郵便の陳列中軍人の寫眞は過ぐる年、米國內亂の際に送り來りたるもの、由よて多くの博覽會見物人に示し受信人を捜し當てんどの考案なりとか、鼠色の洋服に中折帽を戴き鞆を肩に掛けたる郵便配達人茲にも一人あり、海軍省の出品に係る軍艦の模形は殆んど實物に同じき大きにして、船の一部を示す、上甲板あり、下甲板あり、病室、寢室、食堂に至る迄實物と同じく大砲、水雷の位置には實物の大砲、水雷あり之に入れば身軍艦内にある如く外部の喧鬧を聞かす、電燈輝く彈藥庫内、坐に冷氣を催はす

此館内「ドーム」の下は自由の女神あり、高さ六十七呎の銅像「ワシントン」府の政廳にあるものを模したりと聞く、壯大なり



フィリップス館の前を過ぐ城廓様の建物、周圍に池あり奇妙なる船を浮ぶ、沿岸に我國の葦屋に類する小屋あり土人之に居る

八月七日 晴、聖路易滞在

此日は日曜の事故、上田、八木、田島の三氏と共に八哩計り離れたる「クレープ、カー、レーキ」と云ふ避暑地に行く、電車僅かに十仙、此國安きものは電車と氷に「アイスクリーム」なり、四十分よして着す、周回三四哩の泥池、黄色の蓮花あり、自働鐵道あり、貸「ボート」あれども一向ツマラス景色なり夫れでも三百人位の訪客を見付たるは此附近湖水が珍らしき故ならんか、勿々にして市に歸り更に轉じて「カロン、デレット」公園を訪ふ一見東京の上野に似たる處なれども及ばざる事遠し、更に「オフアロン」公園に行く丘上より「ミスシッピー」河を望む所甚だ絶景なり、園の中央に池あり周回五六町ボートを浮べて夫妻相語らふ所樂しげなり

此夜日本料理の宴を開く、此地海を距る千哩の上なれども鮮魚を得る事自在なり、墨西哥灣の魚族を氷詰となし七日間凍車にて運ぶに全く氷詰し新鮮の刺身となりて食膳に上る

八月八日 晴、聖路易出發

此日は聖路易出發の日なるを以て匆忙行李を仕舞ひ博覽會場に入り見残したる所を巡覽せんとして先づ「アドミニストレーション」に行き、出品協會を訪ひ、「ホルチカルチュア」館を見る、館内陳列する所米國各地の菓物、林檎あり、桃あり、「バナナ」あり、「バインアップル」あり、西瓜あり、眞瓜あり、李あり、莓あり、四百呎四面の間此類の陳列にて如何に米國が菓物に富むかを知らるべく日々新らしき者と更迭せしむる由にて外に熱帯菓物の温室、寒帯菓物の冷蔵庫あり

器械館を見る、長さ一千呎、幅五百二十五呎の建物にして館内第一の見物は絶大なる元動器、會場内全部に動力を與へ「カリホルニヤ」の大樹を伐出すに用ふる大鋸、一分間に九萬ガロンの水を運送するポンプ等其壯大なるは驚くの外なし



工藝館を見る、長さ千二百呎、幅五百二十五呎の大建物中に金銀、寶石、陶器、硝子類の美術的製品及び其製造器械あり、日本よりも多くの漆器、陶器、彫刻物等を出品せり。鑛業館に入る、館内の廣さ九エーカー鑛山作業の終始を示すに金、銀、銅、鐵、寶石、クレー、アスベスト、其他の建築材料の採取、洗滌器械一として珍ならざるはなく、館外別よ長さ千二百呎の炭坑あり、作業の實況を示すとの事なれども時間なかりし爲め入るを得ざりしは遺憾なり。

茲を出で、政府館の前を過ぎ、場内第十五ステーションより電車に乗り會場内を一周す。賃金十仙にして行程六哩、車窓の觀望亦一顧の價あり、此他場内を遊覽する自働車(賃金二十五仙)及び椅子車あれども之は試みざりし。

上田氏と共に「ボア、ワー」を見る、南亞弗利加「トランスバール」戦争の實況を演ずる大仕掛の見世物にして實戦に關係したる「ビルジョン」氏「レヅイス」氏杯云ふ軍人が南亞弗利加より六百の男女童幼を連れ來り人馬服裝共實物其儘にて練兵場程の地上「パノラマ」

仕掛の所を駈廻る事なれば動作真に迫り、數十の砲車轟然雷の如く人馬共に倒れ目前よ修羅の巷を見る、日露戦争の現況に思ひ及べば戦争の慘毒、今更に感慨深きを覺ゆ。此夜十一時卅分「ユニオン、ステーション」より「バンタリヤ」鐵道に依り「ワシントン」府に向て出發す。

八月九日 晴、瀛車中

午前八時「インジアナ、ボリス」を過ぐ、人口十二萬、車窓より見る所甚だ繁昌の町なり。此瀛車よは余の外に日本人の乗合なし、「ブルマン」の寢臺車にツクチンと澄し込む所甚だ退屈なり、新聞に依れば旅順口の守將「ステツセル」氏自殺したる由餘り早計なりと覺ふ、又七日の夜「デンバー」に近き「ペブル」と云ふ所にて瀛車、橋上より落ち百人計り慘死を遂げたる由、此國の瀛車隨分悲劇多し甚だ不安なり、沿道起伏多く「スチユベンビル」の邊山水の景見るべし「ダイニングカー」は甚だ清潔にして美味、一食一弗の定めなり、食堂車よ依りては「テーブル、ラカート」とて注文したる丈けの食品代を拂ふものと「テーブ



ル、ドート」即ち一回の食事何程と定むるもの、二様あり東部の瀛車は大低「テーブルドート」を用ふ

午後五時「ビツバーグ」に着す、人口卅五萬の大都會米國工業の中心にして石炭の大市場鋼鐵、銅器、油、硝子類殊に鐵管の製造盛なりと云ふ、茲は汽車二時間停留する間に市中を一見す、高大なる建物櫛比し數階の上電燈を以て各其店名を顯はす甚だ美觀なり、「ステーション」は面積甚だ廣からざれども十數階の建物、車寄は大なる「ドーム」を作り内部は「イルミネーション」を施す、田舎とは云へども東京杯の遠く及ぶ所にあらず停車場にて日本人の労働者に會す是より「セントルイ」へ行くと云ふに道連ともならず宿屋を紹介し遣りて別る

茲よて時計一時間を進ます個は「セントラル、タイム」が「イースタンタイム」に替る故なり

八月十日 晴、華聖頓府着

午前九時ワシントン府第六街停車場に着す、此「ステーション」は西曆千八百八十一年七月二日大統領「ガーヒールド」氏が狙撃せられたる處とて粗末ながらも其儘は残れり、「セントルイ」を距る事九百八十九哩

(華聖頓府略記)

『ワシントン府』は「ポトマック」河の東岸に在る合衆國の首府にして、人口三十萬計り街衢整然、樹木夥しく、道路平潤にして「サイドウォーク」に種々の裝飾あり、工場の類無ければ烟突の煤もなく、電信、電話は地中線に依り、電車の代はりに「ケーブルカー」を用ふるが故に地上に電線の蜘蛛の巣を見ず、眞に奇麗なる町にして殊に全市を北東部、南東部、北西部、南西部の四區に分ち、政廳を中心として北及び南へ一丁目二丁目目の順を付け、東及び西はABCの町目を付するのみならず、地番を付するに奇數と偶數を左右の両側に分ち、一町毎に百番地となすが故よ、何町何番地と云へば直に其所在を知ると同時に其距離をも知らるべく、始めて此地に来るとも決して路は迷ふ患



なし、其上に「ケーブルカー」あり、四通八達賃金は僅かに五仙、黒塗の箱馬車、ゴム付きの兩輪軽く、坦道を行く、賃金一哩は付き二十五仙、甚だ氣持よき所なり  
 途に日本公使館を訪ひ、埴原氏の紹介を得て「アリングトン、ホテル」に投宿す、公使館は二階造りの煉瓦屋、甚だ粗末にして之が堂々たる大日本帝國を代表する公使館かと怪しまるゝ計りなり、高平公使不在の故を以て面會を得ず

此國有名なる「パテント、オフィス」を訪ふ花崗石造四階の大建築にして、書記長「チャールレス、モリス」氏應接甚だ丁寧、案内懇切を極め、諸種の記録を示し説明する所を聞くは秩序の整然たるは勿論、其大仕掛なる驚くべき堪へたり、昨年未の統計にては專賣特許出願の數四萬九千二百八十九、意匠特許の出願七百七十件にして、内特許を與へたる者三萬一千五百八十二、再特許願百五十四件内許可したるもの百十七、商標登録願二千五百四件内登録したるもの二千一百八十六、箋貼登録願一千二百三十四件内登録したるもの九百九十、版權登録願三百八十件内登録したるもの三百七十、尙昨年中專賣特許の満期

となりたるもの二萬二千七百九十七、未済件數一萬四百廿三件にして、專賣特許を與へたるもの、内二萬七千八百十九は米人、三千七百六十三は外國人なり、而して其外國人中英、獨、兩國の人民各千以上を占め、日本人は僅かに六件に過ぎすと云ふに至りては心細き限りならずや、此國特許の期限は十七年として繼續を許さず、特許料一件三十五弗、昨年中の總收入額百六十四萬二千二百一弗八十六仙、盛なりと云ふべし、特許品の模形は二階に陳列す、其數四十萬點、就中、電寫機(テル、オートグラフ)蓄音電話機(テレグラフフォン)無線電信(ワイヤレス、テレグラフアイ)自然色寫眞(フォトクロマスコープ)等は最近の發明に係る珍らしきものなり

「ホワイト、ハウス」を訪ふ名の如く白色の二層樓にして、長さ百七十呎幅八十六呎の建物、大統領「ルーズベルト」氏之に居る、毎日午前十時より午後二時迄は一般公衆の縦覽を許し、各室共出入自在なり、苟くも一國の元首たる者、其邸宅は上等の「ホテル」に

だも及ばず、而かも庶民の縦覽を許すとは自由國の有難き所、東室、紅室、青室、綠室



何れも立派なれども元首の居室としては寧ろ質素なる感あり

「ジョルジ、ワシントン」の碑を見る、高さ五百五十五呎、屹然として雲際に聳へ全部大理石造の方尖塔内に「エレベーター」あり十五分にして碑の頂上へ登るべし、時恰かも「エレベーター」閉鎖の後なりしを以て止むなく階段を攀ちて登る、總數五十階、廻りくゞて九百段を上る、流汗瀧の如く眼眩み、足萎ゆ氣息奄々、電燈の光りに周圍の石を見れば世界の各地より寄贈したる大石「ワシントン」の偉蹟を表彰する種々の彫刻を施したる者數多  
以て碑の内面を飾る漸く頂上に至れば八個の觀望窓あり、涼風一陣頓ち寒きを覺へ、足下を見下せば行人蟻の如く、華聖頓府の全景掌中に在り、「ポトマック」河は漾々白布を引延べたらんが如く眼界十里の外へ及ぶ、壯觀鬱ふるものなし、此碑の建築は西曆千八百四十八年に始まり三十七年の日子と百三十万弗の金を費し千八百八十五年に至り漸く完成したるものよし、中央「シャフト」の高さ五百呎六吋、入口にて方五十五呎、頂上にて十五呎、壁の厚さ入口にて十五呎、頂上にて十八吋、地下に入る事深さ三十六呎

方百二十六呎なりとぞ絶大の紀念碑「ワシントン」の偉功と共に高く、千年不朽の巨石其名を無窮に傳へん

歸來植原氏と共に「カピトル」(政廳)を訪ふ市の中央「カピトル、ヒル」と稱する小高き所  
に在りて敷地三エーカー半、中央に高さ三百七呎直徑百三十五呎の「ドーム」あり、上に自由の銅像立てり、右手に劔を携へ左手に楯を持つ女神、高さ十九呎六吋重さ一萬四千九百八十五磅ありとぞ、兩翼に上院下院あり、上院に接して高等法院あり、時間後なりし爲め内部を見るに及ばず、直に圖書館に到る、建坪三エーカー半の壯大なる三層樓、中央に「ドーム」あり、内部に於ける廻廊の美觀、天井の壯麗は只驚くの外なく、磨き上げたる大理石の廣き階段あり、銅像石像到る處に美術の精華を示し、名工の手に成る幾千の彫刻は各室を十分に裝飾し、新聞閱覽室、議員讀書室、地圖室、肖像室等何れも見れば公衆閱覽室は圓形にして直徑百呎高さ百二十五呎「ドーム」の直下へ在り、丸く座席を設け中央に監視者あり、數名の貴女靜かに書を繙くは著述家にもあらんか、書籍の借



覽は凡て無料、廣大の建物、三面に涉りて書庫を設け、藏書幾百萬、天下一切の圖書茲にあらざるはなし、此館は元と合衆國議會に屬し「ライブラリー、オブ、コングレス」と云ふ九年の日子と七百萬弗を費し建築したるもの、由にて、議會との間數町の處に「トンネル」を設け、空氣管に依り書籍を出入せしむ、窓の總數二千にして光線を取るに宜しく、特は盲人の爲め凸字の書籍雜誌類を蒐め、別は閱覽室を設けたるが如き、組織の完全なるは感ずるに餘あり

八月十一日 晴、華聖頓府出發

「ワシントン」府の滞在は數日の豫定なりしも、折節暑中休暇の事とて、土地の重立ちたる人は皆避暑地に在り、而會を得ざるか故に豫定を縮め、此日出發の事となす、合衆國政府の大藏省、郵便局、美術院、陸海軍省、等皆公衆の觀覽を許す由なれども、時間の都合に依り見ず、午前十時宿を辭して、「フィラデルヒヤ」に向ふ、「ホテル」の支拂九弗五十仙、思へば夜來待遇の厚かりしも此跡腹の痛む原因、よくこそ早く出發せしもの哉

午前十一時「バルチモア」を過ぐ、此地の人口五十五萬と稱す、一見甚だ殷盛なる市街なり、之より數里の間「チェサペーク」灣に沿ふて走る、此灣は即ち大西洋の水深く陸地に入るものにして、偕も余れ太平洋を超へてより、十七日始めて大洋の水を見る、之を涉れば歐洲の大陸、明治昭代の業平卿遙るく來ぬる旅をしと思ふの感あり

午後一時「フィラデルヒヤ」府に着す「ワシントン」より百三十七哩の行程氣車僅かに三時間平均速力四十六哩とぞ、豈驚くへからずや、西人我國の氣車を牛歩的と云ふ宜なり、米國東部の氣車は場處に依り一時間八十哩の速力を出すとぞ、是れは確かに走馬的なり

(費府畧記)

「フィラデルヒヤ」は合衆國第三の都會にして、人口百五萬、其昔米國獨立戰爭の中心たりし所、合衆國第一次の國會は此地に開かれたり、現今製造の業最も盛にして木綿羊毛、絹、毛氈、煉瓦、砂糖の類は米國第一に位す



「ウエスト、ステーション」を出て、「マーケット」街を過ぎ、有名なる「ワナメーカー」を訪ふ、個は甚だ大仕掛なる勸工場様のものにして、一町四面もあらんと思はる、六階の大建物「チエストナット」街に通り抜け自由なり、中に陳列する凡百の賣品、時計、指輪、寶石の小より椅子、「テーブル」、樂器の大に至るまで、物としてあらざるはなく床屋あり、湯屋あり、飲食店あり現よ入場せるもの幾千人なるを知らず、此種のもの米國各地にあれども「ワナメーカー」よ及ふものなしと聞く、繁昌筆紙の盡す所にあらず

「チエストナット」街に「オールド、インデペンデンス、ホール」を見る、赤煉瓦造二階建の粗末なる家屋にして、室内正面に米國獨立の宣言書を掲ぐ、今は昔西曆千七百七十五年六月十六日「ジオルジ、ワシントン」此室に於て軍事總督に擧げられ、千七百七十六年七月四日此室に於て合衆國の獨立を宣言す、今尙ほ存する所の銀色インキ壺は、實に其宣言書の署名よ用ひられたるものにして、正面に据ゑたる、「ワシントン」所用の古椅子は、皮已よ破れ當年の苦衷を語らんとするか如し

茲を辭して更よ「ステーション」に引返へす、途上奇形の馬車を見る、大なる瓶中、人あり飲料を賣る、個は一種の「バー」よして考案甚だ妙なり

「ウエスト」停車場に發車を待つ事十分間、瀛車の發着する事、實に十八回なり、一車出づるや更に一車を迎へ殆んど間斷なく、驛員常よ「プラット、ホーム」に立ち、列車の番號と着發の時間に依り行くべき方面を知る

午後三時五十分紐育行の瀛車に搭す、中よ盛裝したる男女の黒奴あり、喃喃私語す「セントルイ」以西よは嘗て黒奴を見さりしよ、此邊殊に多く上等の「ホテル」及び飲食店には、必ず黒奴の給仕人あり、雪白の「カラ」「カフス」に「イブニング、ジャケツ」を着たる風采甚だ「コントラスト」に富めり

午後五時紐育市の對岸に着す、第二十三街に停車場あり、河を涉りて之に到る、蓋し紐育の地、四面水を以て圍まれ何れより行くよも必ず船便に依るなり、嘗て日本の一紳士深夜紐育に着し瀛車を辭して行く所を知らず、海の彼方なりと聞き大にウロタエたりと



云ふ、余は幸に晝間着したること故、此失策を免れ、得々として「フェリー、ボート」に上る、繪よのみ見たる紐育の市街、二十幾層の高樓對岸に櫛比し、足其土を踏まざるも流石に米國東岸の大都會たるを想見せしむ  
 漸くにして船對岸に着し、第二十三街停車場に入る、「ワシントン」府より鐵道二百二十七哩なり

(紐育市畧記)

紐育は米國の東端大西洋に面する、最大の都會にして人口三百五十萬、商業の殷盛他に比類なく、世界に於ける富の中心點、繁昌日を逐て加はり、殆ど底止する所を知らず、市を南北に貫通する「ブロード」街延長十五哩に涉り、薨を列ふる大厦高樓は高く天を突き深く地中に入る、電車あり、「ケーブル、カー」あり、高架鐵道あり、地下鐵道あり、街衢縱横、交通の機關備はらざるはなく、大小無數の公園は到る處に綠蔭を作り噴水あり、「ベンチ」あり、以て熱鬧の炎塵を避くべし、試よ「ハドソン」河上より南港

口を望めは、無數の埠頭、櫛の齒を列へたる如く、帆檣林立の内に着發する汽車、電車、間斷を置かず、「トラック」の數は河上を往來する「フェリーボート」と其多きを争ひ、高く雲際に聳ゆる「パーク、ロー、ビルディング」は、地平線上より三十一階を數へ、「ワシントン、ライフ」「アメリカン、シユアチー」「エンバイヤ」「マンハタン」「プロジューズ、エキスチエンチ」等の高大なる建物は、何れも高さ三百呎の上に出つ、誠に曠世の偉觀、茲に至りて米國の眞面目を見るべし、統計表に依れば紐育郵便局の扱ふ郵便物は、一日平均一千萬にして、一年の收入千二百萬弗、市内鐵道の乗客一年間に四億五千二百萬人なりとは豈驚くべき數量ならずや、嘗て「アメリカン、シユアチービルディング」を新築したる時、其敷地を購買せしに「ブロード」街と「ウォール」町の角は、一平方「フート」に付金四百弗(一坪の價金貳萬八千八百圓)を支拂ひたりとぞ、以て紐育の繁昌を想見すべし

八月十二日 晴、紐育市滞在



「ナツソ」街に總領事内田貞穂氏を訪ふ、領事館は十階以上もあるへき大煉瓦屋の六階にある三室を充てたるものにして、桑港の領事館と趣きを同じくす、内田總領事待遇甚た懇切にして、観光の便を與へらる

途に「パークロー、ビルディング」を見る、紐育最高の建物にして、總高さ三百九十呎、地上に三十一階あり地下に入る事七十五呎にして敷地の總坪數一萬五千平方呎、建築費は土地と共に金四百萬弗を要し、室の總數九百五十、窓二千八十、戸千七百七十、電燈の數七千五百なり、現に三千五百人を容ると云ふ、此種の大建築は紐育市中到る所に在りて土地の益々繁昌するに従ひ流石に廣漠なる「マンハタン」島（紐育市のある所）も遂に尺寸の余地なく空中地下に膨脹するの止むを得ざるに到り、資本家争ふて高大の建物を作り、借家料を徴して一般に貸付をなすなり、此「パークロー」建物も亦一個人の所有にして其計算を聞くと、一ヶ年の借家料三十一萬八千十弗、内保険料、税金、其他の支出十四萬一千二百三十五弗、資本に對する利息十四萬弗を差引き、金三萬六千七百七十五弗の剩

余ありと、金利の低廉なる米國にてはよき商賣なり

總領事の紹介を得て、紐育株式取引所（ストック、エクスチェンジ）を見る、世界最大の株式市場と稱せらるゝ丈ありて、外觀の美は云ふ迄もなく「ウォール」街に面する宏大なる門を入れば「エレベーター」あり、數丈高き觀棚（ヴイジトルス、ガレー）に導かる内部總て大理石造にして遙かに見下せば、方二十間位の廣大なる寄場、數百の紳士忙はしげに右往左往、何やらん高聲よ呼はり、黄色の正服着たる小者數十名紙片を手にして、其間を奔走す、室の兩側甚だ高き所に鐵製の網らしきものを張り電氣仕掛を以て時々刻々相場の高低を顯はし、一より十六迄の數字を以て分ちたる休憩所に參々伍々、或ひは集まり或ひは散し、忽にして喜色滿面得々然たるあり、又忽ちにして愁容喪家の狗の如く、此處に十人、彼處に二十人、賣方、買方の聯合もあるべし、觀棚甚だ高くして人語を聞取り難しと雖も喧々囂々の内に商戰の實況を見るべく、當業者には甚た面白き見物ならん、聞く此市場に於て一日に賣買せらる株數三百萬に上り、仲買人は一千百名あ



りて、今其地位を得んには金八萬圓を要すること

「ホワイト、ホール」街に産物取引所を見る、長さ三百呎、幅百五十呎、高さ二百二十五呎の高大なる煉瓦屋にして、其建築に三百七萬八千余弗を費したる由、「エレベーター」を上れば觀棚あり、見下ろせば長さ二百二十呎、幅百十四呎の廣大なる寄場、三千の仲買人を以て埋められ、右往左往の景、株式取引所に異ならず、茲は穀物、麥粉、油、種物、牛酪、牧草の類重なる産物を取引し、其高毎年億弗を以て數ふとぞ、仲買人の數三千人、加入金二千五百弗にして、仲買人中五人の仲裁人を定め置き、凡ての争ひを仲裁せしむ、時可ならずして判断の實況を見さりしは、残念なり

紐育時報社に、守屋賢吾氏を訪ふ、紐育唯一の日本字新聞、相當賣行く由なれども、此地由來日本人少なく數百人を出てす、支那人多數なるを以て、外は清字新聞を發行す、印刷及び發行所は六階の一隅、至極輕便なるものなり、因に云ふ此地發行の米字新聞は其數幾許なるを知らず、佛字新聞あり、獨字新聞あり、魯字新聞あり、「ワールド」「サン」

「トリビューン」「グローブ」「チャイナル」「ヘラルド」は米字新聞の重なるものよして、其發行紙數何れも數十萬、日夜數回に分ち版を改め一版、二版、三版、四版より十版に及ぶ、故に朝出版の新聞は十時過ぎには求むれども得難く、早已に何版をか重ね全く別の新聞となり居るなり

三井物産會社支店に林氏を訪ひ、「ブロードウェイ」に坂部氏を訪問す

余の宿したる齋藤旅館は「ブロードウェイ」を少しく第十九街に入りたる所なり、三階の表坐敷、道路に面し向ひは八階の大建物あり、電氣器械を運轉す、其前を「ケーブル、カー」行き、一町位を距て、高架鐵道行く、晝となく、夜となく、晴となく、雨となく、時間を問はず、「ガチャク」（諸器械の音）「ボカク」（馬の足音）「ガラク」（荷車の音）「ブーウ」（ケーブル、カーの音）「ゴー」（瀛車の音）「ガランク」（鈴の音）の音絶えず、騒かしく事甚たしく、最初の内は安眠も出來さる位よて世界の末期、地球の破裂を想像するも、成程無理ならぬ事と思はれたり



八月十三日 晴、紐育市滞在

電車に依り西六十四街やまど方に西川漸氏を訪ふ、「ボストン」に轉住したる由よて面會を得ず、電車内の掲示よ依れば啖を吐く事嚴禁にて犯す者は五百弗の罰金又は一年の禁錮に處すとあり、米國流の大尉なる制裁、肺病の取締は是程にすべきものなり

「リバアサイド」公園に行く「ハドソン」河に沿ふて南北に長く三哩の間眺望絶佳よして富豪の邸宅多く、「グラランド」將軍の墓あり、陸海軍人の紀念碑あり、有名なる「コロンビヤ」大學あり

「グラランド」將軍の墓は花崗石の建物方九十呎高さ七十二呎よして圓頂、經七十呎の「ドーム」高さ百五十呎なり、正面に「吾人ニ平和ヲ與ヘヨ」の文字を刻す、銅製の戸を排して入れは内部凡て純白なる大理石を以て疊み、中央に經四十呎の圓窓を設け、其底に二個の寢棺を安置す、蓋よ「ユリセス、エス、グラランド」の名あり傍なるは將軍の遺言に依り未亡人の爲め設けたるもの、由、棺上供花あり、周圍に禮拜所あり、設備莊嚴にして、

清爽、自ら敬意を生ず、圓窓の外別よ二室あり、「グラランド」所用の軍旗及び記録を保存す「グラランド」將軍は嘗て我日本にも來遊したる人よして、支那の李鴻章とは無二の友人なり、西曆千八百八十五年十月二十六日死亡す、其葬式は紐育未曾有の盛儀にして行列八哩よ涉り會葬者數百萬人よ上れり、其墓を作るに一般の寄附を募りしに忽ち六十萬弗を得、大統領「ハリソン」氏之か基石を置きたりと傳ふ

「モーニングサイド、パーク」を過き「ハイブリッジ、パーク」を訪ふ、「ハイブリッジ」は「ハーレム」河に架したる千四百六十呎の長橋、水面よりの高さ百十六呎、遠く四十哩を距つる「クロットン」湖より紐育市に引き來る水管の爲めに設けらる、此邊風景多趣宛かも日本内地に似たり、「ハーレム」の流、浚々として中流に「ボート」を浮へ兩岸の綠樹鬱然として涼風徐ろに來る、好箇の避暑地、暫くは寫眞に余念なし、去て取水塔を見、又貯水池を見る此水道工事は西曆千八百四十二年よ完成したるもの、一日九千萬「ガロン」の水を送り、千八百九十年に完成したるもの二億九千萬「ガロン」を供給す水管の地



下に入る事平均百七十呎、所により三百五十呎の深きも及ぶ、「ハーレム」河の下は河床より三百七呎下なる岩石を打貫き、對岸に涉り直立四百呎の「シャフト」を通して貯水池に上る、此水管は世界最大のものとして五年の日子と二千萬圓を費したる由、其宏大なる事は「セントラルパーク」に於て見るべし

第四百十一街に林幸平氏を訪ふ、在らず、氏の住居は「ジエームス、タンプル」なる家の一室にして、思ふに高等の下宿屋ならんか、門口に八九名の札あり、番號あり、各別に「ベル」を付す勝手馴れざる余は暫く戶外に立ち「ベル」を探れどもなく、案内を求むるも途なく、當惑の折柄漸く傍らの札に氣付き「ベル」を押せば林氏の同室者來る、個は全く用向ある室にのみ案内を通する仕掛にて、他人を煩はさざる爲と知れり。米人の爲す所凡て此流なり

「セントラルパーク」を訪ふ、此公園は紐育市の中央を占むる最大主要のものにして、南北は第五十九街より第十一街に到り、東西は第五街より第八街に及ぶ、敷地八百七十

九「エーグル」、園内の人道二十八哩、車道九哩半、入口二十二箇所あり、此内動物園、植物園、博物館、蓮池、噴水の類見るべきもの甚だ多く、數日之を訪ふも、尙盡きざるべし、第十一街より入り南すれば心字形の大なる池あり、「ボート」を浮ぶ之を過ぐれば廣き「ベースボール」の「グラウンド」あり、折柄土曜日の午后なれば少年の男女多數茲に集まり遊戯をなす、活潑の振舞、米國婦人の健康に注意するを見るべし、茲より南すれば廣き立派なる道あり、之に沿ふて低き鐵柵を設く、何故とも知らず廣き道を行くに個は全く馬車道にして、人道は鐵柵の彼方なり、ハット氣付きながらも平氣の顔して鐵柵の終りまでと歩みを急かせ行けども、横切る所無く、人道に在る多數の眼は一齋に我身を嘲けるか如く、騎馬の巡查遙かの前面より來るは我に注意せん爲にや、進退茲に谷まり今は体裁を顧みる違なく、赤毛布の本色を顯はし、高さ數尺の鐵柵をヤットの思ひで飛び超へ、人道に入りこそ、然と逃げだしたるは我ながら恥かしき失策なりき

公園の中央に二個の大なる池あり、紐育全市に供給する上水を貯ふ、水源は遙かに北方



四十哩を距つる「ウエチエスター」の「クロットン」湖に發し、既記の「ハイブリッジ」を経て來るなり、池の面積百四十三「エークル」海面を抜く事百八十呎の高地を在りて、容量十一億八千萬「ガロン」と云ふ、周圍を柵を設け廣き人道を通す、散策數百歩、清澄の池水、細波を作り漾々際涯を見す、一週の難きを悟り歸途に就く

園内に有名なる埃及の「オペリスク」(方尖塔)あり、臺石よりの高さ六十九呎、約七呎角の花岡石柱、前面に繪畫様の埃及文字を刻し、臺石との間に青銅の蟹四個を挟む、一見甚だ怪奇、何の意たるを知らず、聞く此「オペリスク」は今を距る事三千五百年の昔、埃及人に依り作られたるものにして元來二個あり、紀元前千六百年代「トスメス」王之を「カイロ」府に近き「ヘリオポリス」の寺に建たる以來、紀元前十二年に至る迄の間は「ラムセス」王「オサーコン」王等各其名を刻み入れたるのみにて碑の所在を替へさりしも羅馬の盛時に及び「オーガス、タス、シーザー」之を「アレキサンドリア」に移せり、紀元后千八百七十七年、二個の内一個を英國倫敦に移し、一個を米國に持來れり、現在の塙所に建て

たるは西歷千八百八十一年にして運送の費用は總計十萬二千五百七十六弗、皆富豪「ウイリヤム、バンダービルド」氏の寄附に係ると云ふ、試に其重量を問へば四十四萬八千磅、石質甚だ牢く銳利なる石切器械を以てするも、何の痕跡を止めずとの事、數千年の昔、埃及人が如何にして之を彫刻し、又如何にして之を運搬したりやは考古學上未解の問題なりとぞ、而して彼の青銅の蟹四個は「シーザー」が碑を「アレキサンドリア」に移したる節、運送途中にて碑の角を損し之を補ふ爲め作りたるもの、碑面の怪文字は即ち埃及の古文、當代の王名等を記するものにして、是等の事歴は従前古代文字を解するの道なりし爲め殆んど湮滅せられんとしたりしに、西歷千七百七十年に至り埃及の「ロセツタ」に於て偶々古代文字と希臘文を對照したる石碑を發見し、爾來研究幾星霜を重ねて近年漸く其全文を読み得るに至り判明したる由、文字の徳亦大なる哉

歸途第五街「メトロポリタン、アートミュージヤム」を訪ふ、米國第一の豊富なる美術館、敷地十八「エークル」に渉る、赤色二階建の大建物は市有なれども、陳列品は皆市民の醜



出に係れり、立派なる繪畫、彫刻物、紀元前四千年來の埃及「アッシリヤ」、波斯、希臘羅馬の古美術、「ミイラ」、土器、古記録、石、硝子類の彫刻、日本、支那の陶器、武器樂器、象牙細工等珍器重寶山の如く米國富豪の所藏、金力の大を以てするも此く迄よ世界の名物を蒐集せん事は、非常の苦心なるべし、就中有名なるは「ハンチング、パーチー」と題する油畫及び「イーブ、ウイズ、ゼ、ボジー、オブ、アベル」と題する大理石像よして、余の素人目にも確かに非凡の作と見受けられ、日本の古畫に浮世繪多く、曉齋の鷺、狙仙の猿、平戸鷹取の陶器、松本喜三郎の木彫人形、正宗、村正の古刀劍類何れも立派なり興盡きすして去る

八月十四日 雨、紐育滞在

午前二時頃旅宿の門前人馬の音高く、非常の「ベル」を鳴らす、蓋し近傍に出火ありしならん、暫時よして止む、米國の火災は多く「ストーブ」より發し石造又は煉瓦造なるか故に、手廻し早ければ、只其出火したる建物の部分に止まり、他に延焼する事なし、實に

數階又は數十階の上に在りては出火の場合、如何に身を處すべきやとの問題は、不馴なる余の常は遭遇する處なれども、上等の「ホテル」には必ず「ファイヤ、エスケープ」あり、何階の上よりも直に遁るゝを得べく、又大抵の家には消火器の備へあり、尙必ず電話の設けあり、直ちに消防署に通知し、手廻し甚た速なるを以て、出火の心配は殆んど無用なるか如し

渡米以來始めての雨天、殊に日曜の事なれば、全市寂然として眠れるか如く、各戸其業を休み「バー」「レスチュラント」烟草店の外は僅少なる猶太人の店のみ開かれ、襟一つ買ふにも甚不自由なり、雨中を行く男女は大抵傘を持たず、是れは此國の風俗なりとか、大抵の商店は表に立派なる商品を陳列し、硝子戸一枚よて夜は只窓掛を引き置くのみ、之れで盜難もなく硝子戸を破壊せられたる事も聞かざるは、公德の發達せる爲め他人の器具を破る如き惡戯を演ずる者なく、盜賊はあれども金錢の外には商品類を取りても捌口なく其手數と勞銀を比較すれば、寧ろ盜まざるに如かすとの算盤上より拘摸の如きも



殆んど皆無なりとは、旅行者に取り結構なる事なり

林氏と共に高架鐵道を乗り「バッテリー、パーク」を訪ふ、此鐵道は道路の上四五間の處に高く鐵橋を設け二條の軌道を通す、動力は電氣を用ふるが故に煤烟を揚げずと雖も、其響轟々沿道の家は多少迷惑なるべし、橋欄の下は必らず電車又は「ケーブル、カー」の線路ありて利用の道備はれり、此鐵道の終點を下れば即ち公園にして兩岸の景色面白く沖合遙かに自由島の銅像を望み、左側は近く「ブルークリン」の長橋を見る、園内水族館あり、圓形二階建の巨大なるものにして構造甚だ佳なり、内に大池を設け海豹、海獅の類及び鱒魚あり、「アンゼルフィッシュ」「ムーンフィッシュ」「バタフライフィッシュ」は何れも觀賞に値す、此館内は在る魚族凡て三千種、日々三十萬「ガロン」の鹹水を供給すと云ふ「ブルークリン」橋を見る、「イースト」河に架せる世界最大の釣橋にして全長一哩余、中間に二個の高塔あり、橋下より水面迄の高さ百三十五呎、大船巨船を通する事自在なり此橋は「ジョン、ロープリング」氏の設計に係り、十三年の日子と金二千百萬圓を費し、西

曆千八百八十三年に完成したるものにして工事中最初の設計者は死亡し其子「ウィリヤム、ロープリング」氏父業を繼承したるも是亦火傷を蒙り現場に到るを得ず、家を「ブルークリン」の高地に設け其窓より望遠鏡を以て工事の進行を監督し妻の助力を得て成就したりしと云ふ、中央はある二個の高塔は即ち「ケーブル」の集中點にして、總高さ二百七十八呎、之は集まる無數の鐵條は蜘蛛の巣を張りたるか如く、幅八十五呎の橋上は三段に分たれ、中央上層を人道とす、之を狭みて兩側に電氣鐵道あり之を中層とす其下兩側に「ケーブル、カー」を通し、更は其兩側を馬車道とす、絡驛たる人車恰かも鐵鋼の内

に在るか如く往復の頻繁なる驚くに堪へたり、千八百九十七年の統計に依れば此橋上を電車にて通過したる人五千百五十萬人、歩行したる人三百十九萬六千人にして一日平均十五萬人と云ふ

橋を渡れば即ち「ブルークリン」市にして人口百萬、繁昌紐育に次ぎ兵庫と神戸の如く只河を距つるのみ、「ワシントンパーク」は最も閑靜なる公園として涼を取るに宜しく、「ジ



オルジ、ワシントン」の銅像あり

八月十五日 晴、紐育市滞在

聖路易出發に際り「ユニオン、ステーション」にて托送したる荷物の内「トランク」一個は誤て他人の「トランク」を送り來り、直に鐵道會社に懸合たれとも要領を得ず、全く「ユニオン、ステーション」よ於て番號を付け誤まりたる事丈けは明白せしも、自分の「トランク」か今何れにあるや發見せず大に閉口せり、此種の間違は米國の鐵道に於て屢々ありと聞き、其不締には驚くと雖も早晚必らず我手に戻るへき確信あり、此點は日本よりも安心なり

紐育市廳を訪ふ、「シチーホール」公園よ而する白色大理石造の建物、甚だ体裁善く之を入れは階下に市長室あり、西曆千七百七十六年七月九日「ジオルジ、ワシントン」か獨立の宣言書を読み上げたる場所は即ち其窓下に當ると云ふ、二階に市會議場あり、「ガバノルス、ルーム」(州知事官房)あり、「ワシントン」「ゼファアーンソンの肖像」「ワシントン」所用

の「テーブル」あり、毎日午前十時より午后四時迄衆庶の縦覽を許す

市廳の隣に裁判所あり、千二百萬弗を費したる宏大の建物、市廳との間を「握手の通路」と稱す、其意蓋し政客の往復頻繁なるを云ふものにして、廳内記録室は六百萬弗を要したる堅牢の書庫、此内紐育全市の土地建物に關する簿冊を貯藏し公衆の展閱に備ふ、恰かも我登記簿の如きか、時已よ遅く後日の再訪を期して去る

歸途「ウオールド、ドーム」に登る、新聞「ウオールド」の發行所にして高さ二百七十五呎半、二十二階の大建築なり、印刷所は階下に在りて一時間に入ページ掛、六十七萬二千枚の新聞を印刷し、切斷し、且之を疊み得る器械を備ふ、「エレベーター」に依り塔の頂點に上れば、四顧瀾然東に「ブルークリン」橋を望み、南よ「ガバノル」島、西よ「ハドソン」河を隔て、「ゼルシー」市を見る、北は眼界の及ふ限り紐育の市街、只、壁、家根、塔、烟突の群集するを見るのみ、今更に紐育の大に驚く

茲に特筆すべきは米國よ於ける總ての建物は、出入自在よして圖書館、博物館、水族館



の如きも多くは無料、公設の建物は勿論私設のものど雖も之に入るに咎むるものなく、裁判所の如きは二階にも三階にも靴磨き屋あり、氷店あり、飲食店あり、大なる建物よは特に観覧人の席を設く、是等は大に我國と事情を異とする所なり

八月十六日 晴、紐育滞在

「セントルイ」より發送したる荷物未だ着せず、終日之か爲めに奔走す、着換の「シャツ」襟等を買はんとて「ブロードウェー」の或る雜貨店に入りたるに流行新形の陳列目も覺むる計り、米國一流の商賣上手、素見してもイヤな顔せず顧客の機嫌を取る所、我國の商人に學はせし、聞く此地よては時々の流行皆商人の腹案よ出て、來年流行せしめんとする品は今年より已よ其手廻しをなし置き、重立ちたる商人聯合して今年流行の品を原價以下に引下げ非常の安賣をなし中流以上に用ひられざる迄落したる后、兼て貯へある新形のを賣出すなり、故に一時は損毛承知よて有品を賣捌き新なる流行を喚起す手段なれば、我國より商業視察に行きたる人々も此間の消息に注意し、色々と苦心すれど

も嚴に秘密を守り、要領を捕捉し難き由、我國に輸入する商品多くは時候後れにして、舶來小間物よても日本にて買ふ方米國より廉價なる様感するは全く此邊の事情もあるべく、小賣相場と卸値段に非常の懸隔あるに依るか、免よ角此地商業の殷盛なるは眞に驚く計りにして、金利甚た低く個人信用の發達せるは確かに其一原因たるへし、或銀行家の話よては銀行預金に一切利子を付せず、普通貸借は年利二分又は三分にして商品の元拂は概ね二三ヶ月長きは半年に及び、商品を擔保として銀行より貸出をなすも倉庫の出入に何等の干渉をなさすとの事、商人に取りては非常に都合よき所なり

此日洗濯屋にて帽子の洗濯をなさしむ、句あり

又洗ふ麥葉帽や八千哩

夜、原田氏、林氏と共に近傍を散歩し「メヂソン、スクエア」に小憩す、方二町計りの小公園よして、此種の公園は紐育市内到る處よ在り、思ふに繁華熱鬧の市街必ずや此設備なかるへからず、我國にては各戸皆大小の庭園を有すれども此國よは如何なる大厦も内



に庭園なし、而かも經濟上各戸庭園の制を廢し所々小公園を設け公衆團樂其樂を共にするに如かず

歸途「ブロード、ウエー」は一寸法師を見る、年齢五十才位脊丈僅かに二尺位の米人、乞食の徒なり、此國又手足の不具者多し、個は全く器械工業の盛なる爲めと聞く  
八月十七日 晴、紐育滞在

「リツチャード、コンパニー」に「ホワイト」氏を訪ふ、專賣特許に關する事務の打合をなすに應接甚だ親切よして毫も城廓を設けず、其著書及び諸表を與へらる米國紳士の厚情感ずるに堪わたり

裁判所に到り「シユープレム、コート」を見る、「ガウン」(判事の法服)着けたる判事「ステーブ」氏の面前に於て「アーギュメント」あり、當事者双方準備書面を交換し各其主張を陳述す、判事は只一人書記の呼上に應じ數十件を審理する模様甚だ敏活なり、又別室に判事「マツコーバ」氏あり其面前に「モーション」(申請手續)をなす辯護士書記は別に正服

なし脊廣縮服一向に構ひなきか如し、此他に「クリミナル、コート」「サロゲート、コート」あれども開廷なく、檢事一人空しく机に向へるを見たり

廳内にて辯護士「ロッセンバーク」氏と會す、氏は「レビー、エンド、アツガー」氏の「ロー、ファーム」に屬し、年齢三十四歳禿頭にして鬚髯あり、米國流の交際上手よして余の爲め大に斡旋の勞を執られ重なる判事及び辯護士にも紹介せられたり

八月十八日 晴、紐育出發

此朝「ニューヨルク、ワールド」新聞は自分の記事見ゆ、日本政府の密旨を帶ふる如く記したるは新聞屋の狩手段なり

紛失の荷物漸くにして發見す、「セントルイ」の「ユニオン、ステーション」よて番號を付け誤まりたる自分の「トランク」は今「サンフランシスコ」に在り、東西三千哩を距つるも近日「シャトル」に到るへき筈に付き、桑港より直に「シャトル」へ向け送るへき旨を命す  
午後六時三十分原田氏と共に「パークレー」街停車場に到り「ラクワナ」鐵道に依り、「バハ



ロー市に向ふ

汽車中「ダイニング、カー」にて夕食す、「メニュー」の内に「有名なる極樂泉の水無料」とあり、得たり賢しと給仕に命ずれば、卓上の「コップ」を指し之なりと云ふ、何の變哲もなき氷水、亞米利加にも安ひものと化物はなかりき

此夜「スクラトン」と云ふ停車場より乗込みたる西洋人の夫婦者、大喧嘩をなし甚た見物なり巡查來り二人共連れ行く、結局如何なりしや

八月十九日 晴、「ナイヤガラ」見物

午前七時「バハロー」市に着す、紐育より四百十哩なり、紐育「セントラル」鐵道に乗換へ「ユニオンステーション」より「ナイヤガラ」瀑布に向ふ、「エリ」湖邊の光景絶佳、恰かも我琵琶湖邊に似たり

「バハロー」より「ナイヤガラ」迄は二十哩、其流車中にて車掌余等の往復切符を取り、無効なりと云ひ、更に二人前八十仙を強要す、不都合とは思へとも躊躇すれば下車せよと

云ひ、乗合客の勧めに依り止むなく支拂ひたれとも一向腑に落ちず、跡にて聞けば全く車掌にユスラレたる事判明したるに依り、被害の由を驛長に届け置きたり、此國の流車中往々車掌の不都合ある由、勝手知らぬものは甚だ迷惑なり

流車「ナイヤガラ」に着す、此地人口一萬九千余、瀑布の恩澤に依り生活せるものにして毎年六十萬の訪客ありと云ふ

有名なる「ナイヤガラ」瀑布は「エリ」湖と「オンタリオ」湖の間に在りて、其北側は英領加奈陀、南は米領とす、西曆千七百四十四年より六十三年迄の英佛戦争及び千八百十二年に於ける米國獨立戦争は茲に雌雄を決せられ當年の古戰場、今は世界の樂園となる、變遷も亦妙なる哉

馬車を命し「ゴートアイランド」に到り「アメリカン、フォール」を見る、幅千七百呎の急流、直下百六十七呎、勢猛烈にして高く水沫を飛ばす、虹蜺前に在り遠く對岸に及ぶ、立つ事少時にして夏尙寒きを覺え、耳聾し目眩く誠に絶大の奇觀なり、句あり



## 英米の虹戦ふや「ナイヤガラ」

去て「ホースショウ、フォール」を見る、此瀑は名の如く馬蹄に似て半圓形をなし、幅二千三百七十六呎、高さ百六十五呎あり水色青く、厚さ二十呎を超ゆと云ふ、其上に「テラビシロック」と稱する大岩あり、之に登れば直下に瀑を見る壯觀無比なり

此地昔印度人は毎年妙齡の婦女を小舟に乗せ瀑布の上流に放し、人身御供として彼等の幸福を祈りたる由、何所も同じ野蠻の風習、余等の行きたるより二日前の午前九時頃、此瀑布に投身したる美人ありと、「ニューヨーク、プレス」に見ゆ、其名を藤村樫と云ひしや否知らず、又此急流を舟にて横切らんとし溺れ死したる者前には「フラック」氏あり、之を泳かんとて溺れたるは「ケンダル」と云ふ人、三日の後其死体を發見したる由、冒険の人もあるもの哉

「プロスペクト」公園に近く上流に橋あり、長さ千二百六十八呎、幅四十九呎、鋼鐵製の釣橋にして橋下の水深百六十呎ありと云ふ、之を渡れば即ち英領加奈太にして橋上の觀

甚た善く瀑布の全景を見る、米國側の橋詰に税關あり手荷物を検査し橋賃十仙を徴す、甚た面倒なり

橋詰は近く水力利用の發電所あり、此會社現に用ふる所の水力二萬馬力にして、附近多數の化學的工場及び「バハロー」の電氣鐵道は電力を供給す而かも「ナイヤガラ」瀑布の水力は尙三百萬又は四百萬馬力の上に在り、目下之れが利用の策を考案中なりと聞く

水力電氣に依り懸崖二百五十呎の下に到る、茲は「プロスペクト、ポイント」と稱し、兩岸高く英米の絶壁あり上流遙かに瀑布の大を望み、末流茲に至て忽ち急に、突出せる巨巖を打て、飛沫雪の如く壯觀譬ふるに物なし、傍らに寫真師あり速寫五弗を請求す余りの馬鹿らしさに這々逃げ出せり

午后二時「ナイヤガラ」を辭して「バハロー」市に還り市中を見物す、「メイン、ストリート」は市の中央にして五階六階の建物多く電車の往復頻繁にして甚た繁昌せり、中に「エリックツト、スクエア」と稱する一町四方の建物あり、内部凡て大理石を以て疊み中央に空地



を置き周圍に數階を設く、之に登るは十個の「エレベーター」あり、其を取り三階に上り見たるに仲買店あり、小間物店あり、鐵道會社あり、辯護士事務所あり、諸種の商賈雜然として茲に室を列ふ甚た便利なり我國にも早晚此の如き建物の必要を見るへし  
市の中央は陸海軍人の戦死者紀念碑あり、勞働者茲に來り憩ふ小公園の風あり、此地人口三十萬と稱するも、一体に不潔田舎の小都會と過さず

午後八時三十分「ワバシユ」鐵道より市俄古市に向ふ瀛車中「シカゴ」の新聞記者「スチーブン」と云ふ人、元と「グランド、アーミー、レバブリク」の軍人たりしとて日露戦争の爲め大に氣焰を吐く

八月二十日 曇、市俄古着

「バハロー」より市俄古迄の「ワバシユ」線は瀛車米領を出て、英領加奈陀に入り更に米領に還るなり、故に其出入毎に税關の面倒あり、午前三時頃眼覺むれば瀛車更も動かさず而かも水上にある如し、窓を排し四方を眺望すれば身は今「デトロア」河の中流ありて瀛

車は其儘扁平ある船中と在り、個は是れ英領の「ウインゾル」停車場より米領「デトロア」停車場と到る渡船として接續の工合甚だ能く些の故障を見ず、茲より時間變り「セントラルタイム」となる

正午市俄古に着す「バハロー」より五百二十五哩なり、長鹽氏の紹介を得て「ルーミス」街十二番地「ミセス、ヘート」方の三階を借受け數日の假宿となす、旅宿に比し寧ろ氣樂として經濟的なり

(市俄古畧記)

市俄古は米國「イリノイス」州の首府にして「ミシガン」湖に望み、人口二百萬を有する都會、穀物、家畜、木材等の大市場なり、市内高層の建物多く偶々二十階に及ぶものあり、公園は「ジャクソン、パーク」最大にして先年萬國大博覽會のありし所、「ワシントン、パーク」「リンコルン、パーク」「ドクラス」「ハンボルド」其他大小の公園は數ふるに違なし、高架鐵道あり、「ケーブル、カー」あり、「シカゴ」河の底に「トンネル」を通し



内に電車を走る、之を過くれば夏尙寒し、紐育に次く繁昌の都會、日本人の雜貨店二三あり

八月二十一日 晴、市俄古滞在

此日は日曜の事とて市内一般に寂然たり

「リソコルン、パーク」を訪ふ、「ミシガン」湖に沿ひたる廣袤九百町歩の公園、風景絶佳、内  
 々動物園あり、規模甚大、北海の白熊、殊に珍らし、植物園あり、日本の産物多く、「オ  
 ールド、ミル」と稱するは水車を以て水勢を作り細く長き水道の内に舟を走る、小供歎ま  
 しの見世物、入場料十仙の散財をなしたり

「ユニオン、パーク」を訪ふ、小奇麗なる公園、池あり、橋あり、一寸日本的にして小女の  
 來り遊ぶ者多く、余の寫眞機械を見て撮影を望まれ當惑したり

此夜「メヂソン」街を散歩す、「サイド、ウオーク」の地上、金色の大文字あり、顧みれば椅  
 子「テールド」の類を賣る店、表硝子と同一の金文字ありて門前の「アーク」燈、宅内の鏡

は反射し硝子の金文字を地と印する仕掛なり、又「クラーク」街の角に時計屋あり屋根看  
 板に大なる眼玉を作り自動的に開閉し其椽を紅白の電燈回轉す、何れも廣告の手段面白  
 し

八月二十二日 晴、市俄古滞在

「ラ、セール」街に日本領事館を訪ふ、六階の一室、館員僅かに四人、領事清水氏應接甚た  
 懇篤にして各工場を紹介状を與へらる、而かも現今職工の「ストライキ」最中にて有名な  
 る屠牛場の如きも舊來の者の外別々職工を雇入れ危険を避ける爲め場内に寄宿せしめ外  
 出を許さず、數日前一人の職工「ストライキ」組の爲め打殺されたる趣、形勢甚た不穩に  
 して一般人民も今は「ストライキ」は同情を寄せざる位なれば此際工場の見物は甚た不便  
 なりと云ふ

領事館の向ひに市廳あり又裁判所あり、石造の大廈、中に「サーキュート、コート」を見  
 たれども開廷なし



「ランドルフ」街「イリノイス、セントラル」鐵道の停車場より瀛車に搭し「ブルマン」に向ふ、此停車場は市俄古の東端「ミンガン」湖の傍に在りて三町余の長橋其下は七十有余の鐵道線路あり、茲より「ブルマン」迄十里市街鐵道を通す

「ブルマン」は有名なる「ブルマン、カー」製造會社のある所にして此製造所ある爲め戸數千余の町をなし且特に停車場を置きたるなり、瀛車を下れば左側は宏大なる敷地を圍繞する鐵柵あり、此内數棟の製造所を見る、右に「ブルマン、ホテル」あり、正面に「ブルマン」銀行あり、皆是瀛車製造會社の爲めに設くと云ふ

鐵柵を入れば正面に四階建の事務所あり、刺を通して觀覽を求むれば支配人快く承諾し人をして場内を隈なく案内せしむ、先つ見るものは二千五百馬力の大原動器、特に一棟の建物を設け清掃甚だ行届き嚴として侵すへがらさるか如し、次に鍛冶工場は入る方七八寸長さ五尺余の大火柱は輕便なる器械的作用に依り金床の上に運はれ、僅かに一人の片手に握られたる桿の上下に依り忽ちにして圓柱となり、車軸となる、此車軸は次の工

場は送られ大なる器械を以て適當に削られ車輪を嵌入す、車輪中の最も肝要なる部分なれば十分の注意を用ひ一分一厘を苟もせざる所、素人眼も暫く感じ入りたり、巨大の器械を以て鋼鐵を切斷し、螺旋を付け穴を穿ける杯は恰も飴細工の如く、圓鋸、緊鋸盛に運轉する所棟梁の材も忽ちにして細片となり大根を切るよりも易く、鑄物工場は最も廣大にして鐵、眞鍮の鑄物類を作り、眞鍮工場には「ナイフ」「フォーク」「スプーン」手洗鉢燐寸入、「ランプ」の類を作る最終の仕上げは巨大なる造船場の如く「レール」の上に諸種の材料を以て客車を組立て「ペンキ」を塗り文字を記し、車内の器具を取付く、規模の宏大なるは今更云ふを要せず、使用職工六千五百人「レール」及び機關車を除く外は客車は關する大小の材料皆茲に製造せられ「ブルマン、カー」として米國の各地何れの鐵道會社にも供給せざるなしとは豈驚くべき盛大のものならずや

瀛車製造會社を辭して「ブルマン」停車場に到れば京都内貴氏の一行あり、相見ても然らば桑港は分れ聖路易に分れ期せずして今此僻地に會す、奇遇とや云はんか相携へて市俄



古に歸り「ジャクソン」公園を訪ふ、「ミシガン」湖邊の勝地嘗て萬國博覽會を開設したる所にして今尚ほ存する美術館も當年の名残を留め、日本の出品に係る宇治の鳳凰堂は園の東南閑雅なる池の邊に在り、建築は甚だ立派ならざるも室内の裝飾稍や見るべく、聖路易の紫宸殿に優る事數等なり

八月二十三日 晴、市俄古出發

此朝原田氏を「デアボン」停車場に送り、「ハルステッド」街に「ユニオン、ストック、ヤード」を見る、此屠畜場は世界有數のものにして廣袤一哩四方、内も數百の區劃を設け羊、豚、牛、犢の類を蓄ふ、門よ入る幾百の牛群明日の命を知らず、門を出つる幾千の群羊牧夫の鞭聲に屠所の歩みを連ふ、場内に十二の大道あり、各町名を付し馬車を行る、又數條の高架道あり、家畜の類を往來せしむ試みに一區劃内の羊群を數へたるも百に至りて尙其半數も及はず、「ミューク」の聲耳を蔽ふて遂に算する能はず、數十の監督者あり馬上にて場内を巡視し正服の巡查幾人要所々に張番す、蓋し例の「ストライキ」に備

ふるなり

「ユニオン」の一なる「スウィフト」會社に到り、其案内を得て屠畜の現場を見る、此會社は「ストックヤード」に於ける最も有力の者にして資本金四千五百萬弗、日々の製品を輸送する爲め私有の貨車三百五十輛を用ふ、昨年中の賣上高は二億弗に上り現今の使用人一千人を超ゆと云ふ

先づ屠豚場に入れば數萬の豚ウチャク然と雜居し、間斷なく輪の回轉も從ひ倒身となり下り來る喉首を一人の猶太人銳利なる刀を以て突切る、其瞬速なる手際一時間能く六百七十頭を殺すと云ふ、慘狀見るに堪はず、去て次室に至れば茲は殺したる豚の皮を剥く所として非常に熱したる湯を用ふる爲め室内暑き事甚たしく、更に次室に入れば豚の臟腑を洗ふ所にして殆んど清潔のものとなす、次は皮剥きたる豚を數百頭釣下けたる所あり、官吏の検査を待つ爲めよして此國の検査は屠殺前一回屠殺後一回あり検査済のものには焼印を押すと云ふ、此外別に「ハム」「ベーコン」の製造場あり、豚の冷蔵庫あり、常



よ三十八度の温度を保ち能く一萬五千頭を容ると云ふ、余の見たる丈けにても貯豚の數確かに千以上はあるべし

次に屠牛場に入る、横に長く幾百の牛を倒さまよ釣るしたるは己よ撲殺せられたるにや器械の作用に依り其牛一頭つゝ中央に來れば待構へたる一人の猶太人利刀を以て直に其胸を貫く、鮮血忽ち迸り瀧の如く地に落つ、一面赤毛布を敷きたるか如く、之を殺すに一時間二百四十頭の割合なりとは手早き事驚くべし、去て次室に入れば牛の皮を剥く處、其次室は「サーセージ」の製造場にして牛肉を粉碎するもの、腸管又は胃袋に之を充填するもの何れも皆器械を利用し、袋を管の口に持來れば肉忽ちにして其内に充滿す、茲を過くれば牛の貯藏庫あり、幾百頭とも知れざる牛の半身是皆今朝屠殺したるものと云ふ此他羊の屠殺場、皮剥場を見たれとも別に特色なし、只羊は一時間六百二十頭の割を以て屠殺し一日平均七千枚の羊皮を産出すと云ふ

此外別に「ラード」製造場あり、巨大なる石臼の間より落ち來る肉脂の磨身は忽ちよして白「バター」の如く之をも桶詰にする、其數幾千なるを知らず又別に石鹼製造場あり、經一丈深さ八尺位の大釜十二個の内に沸々音をなせる牛脂は釜の中央にある棒を以て攪拌せられ傍にある幅四尺高さ四尺厚さ一尺位の箱中に注入す、此箱は即ち石鹼の型よして出來上りたる石鹼は恰かも築港用の「ブロック」に似たり、別室に石鹼仕上場あり香料を加ふるもの、染色をなすもの、花紋を付するもの、紙包をなすもの、皆一見の價值あり「ストック、ヤード」を辭して歸宿し、更よ「アード、ミュージヤム」を訪ふ、古代建築の「モデル」は希臘、羅馬の盛時を思ふへ、古代硝子の製品は一見翡翠玉に似たり、埃及の古代文字を刻したる印材様のものは甚た愛すべく、石膏細工の肖像例よ依て多し、二階の一隅に佛人「ハバート、ロベルト」なる人の「オールド、テンプル」と題する油畫四枚、傑作なるか如く二名の繪師油畫機械を持來り臨摹せるを見たり

午後五時長鹽氏を訪ひ、告別の後六時三十分「ユニオン、デポット」より「バーリン」鐵道よ依り「セントポール」に向ふ



八月二十四日 晴、瀛車中、

午前五時眼を覺ませは身は「セントポール」の前百哩計り「ミスシツビー」河の右側に在り此河滔々數千哩「セントルイ」を経て「メキシコ」灣に注ぐ世界第一の長流茲は其源を見る午前八時瀛車「セントポール」に着す、市俄古より行程四百三十一哩なり、停車場より少憩、茲より更に「グレート、ノーザン」鐵道に乗換へ午前十時半「シャトル」に向け出發す午後八時瀛車「ノースダコタ」州の「グラント、フォルク」を過ぐ偶々一日本人の車内に來るあり、其姓名を問へは德島縣人渡邊義平氏煉瓦製造所の機關師として三年以來此地に在る由、其談話は依れば「ノースダコタ」州一体に酒を賣るを禁し又賭博を嚴禁するも橋一つ距てたる「イースト、フォルク」は「ミネソダ」州に屬し此禁制なき爲め盛に賭博流行し酒類等も橋を踰へて「グラント、フォルク」に持込來れども巡查之を見て一向咎めざるのみか共に賭博場に入り飲酒する杯甚だ乱脈なる由、米國一流の不取締、田舎は殊に劇しき様なり、日本人四名、支那人三名あり、諾威人は甚だ多く入込み居る由なれども米

人之を喜はず、猶太人は大なる商店を開き相變らす米人の擯斥を受けながらも盛に營業せりとぞ、又同氏の談話は併て「ハーバー」の鐵道支線に工夫たりし時一夜米人の勞働者數名、同氏の「テント」に來り山中に引連れ行き直に其職を捨て、日本に歸るべき旨を命じ當時帽子を被り居らさりし爲め懷中より五弗の金貨を出し帽子を買へとて渡し呉れたる由、個は全く日本人の爲め自己の職業を奪はるゝ恐れあるより兎に角此國を立去らしめんごの意思にして所謂東洋人排斥の實現したるものなれども聲の大なる程甚だしきものにあらず、之を見ても我國外交家の神經質なるを驚くべし

八月二十五日 晴、瀛車中

前夜渡邊氏と「デビル、レーキ」にて分れ余又一人となり、渺茫たる「モンタナ」の平原を行く「マイノット」と云ふ所よりは「マウンテンタイム」となり時辰一時間を遅らす、午后一時瀛車「ハーバー」に着す、此地は原野の内に在る一小寒村なれども鐵道工事の中心點とて日本人も多く三十分計りの停車中種々なる談話を聞く内は私刑(リンチ)の事あり其



要、昨年二月の事なりとか「モンタナ」州の「グラスゴー」と云ふ所よて黒奴、人の妻を強姦したる爲め入獄せしに村民集まりて之を奪ひ去り町外れにて火刑に處したる處、之を見んとて集り來る老幼男女夥しく警察官も見て見ぬ振をなし敢て之を咎めさりし由、亞米利加の田舎には今尙此風あり又本年五月の事とか「ハーバー」の鐵道工夫にして松井直吉と云ふ一日本人小女強姦の冤罪を蒙り入獄したるに裁判の結果有罪と決し禁錮八月罰金百弗の言渡ありたるも控訴中獄吏は被告の友人に對し金五十弗を以て保釋せんと云ひ出てたるも友人は固く被告の無罪を主張し敢て保釋を願はさりしより、獄吏も遂に監獄費を増す恐れありとて無條件にて被告を釋放し、控訴判決の結果無罪となりたる由、何事も金次第なる米國の事なれば裁判の正否は一向當てにならず、此話も何處やら頼りなき心地するなり

「モンタナ」の平原「ブローニング」と云ふ一小部落を過ぎ、車窓より印度人の男女を見る馬に跨りたる妙齡の美人容姿甚た愛すべく男子は奇妙なる袴を穿ち頭部に赤布を纏ふ、

此邊水牛の角を五六本組合はせ帽子掛よ造りて賣りに來る土人多し

午後七時半「ミットベール」の邊より落機山脈に入り雪除の中を行く、線路よ故障ありて瀛車十度計り傾斜す、甚た氣持悪し

八月二十六日 晴、「シャトル」着

午前二時「トロイ」に着す、此處より「バシフィック、タイム」となり時辰一時間を遅らす

午前四時五十分目覺むれば身は落機山中に在り、朦々たる濃霧二三間の先を見す、漸くにして瀛車「ブリエスト、リーバー」停車場に着す、茲よ湖水あり流れて「ブリエスト」河となる、風景佳なり

午前七時「スポカン」停車場よ着す、此地山中の小都會、大北鐵道の分岐點よして大小の工場多し、茲より隣席に入り來りたる若き二人の婦人、音樂師ならんか手に「ヅワイオリ」を携へベチャクチャ喋りながら「バナ、」を喰ひ、桃を喰ひ又豆を嚼む、車掌切符を示さん事を求むればカラカイ半分に現金を出し、窓を明け放して他人の迷惑を思はず傍



らの老媪見兼ねて注告すれば一時閉して又開ける杯、殆んど仕末に行かぬ代物なり、年頃は二十前後一寸フメル御面相なれども余りの事に呆れかへり席を離れて「スモーキング、ルーム」に入る、米國の女、大抵此類なり

之より暫くは落機の中迂餘曲折して行く、見下せは千仞の谷底、幾百年を経たる古木自ら枯れて葉を留めず、倒れたるあり、裂けたるあり、空しく頽廢に委す米國森林の富源尙未だ開拓せざるもの多し

午後七時「エレベット」に着す、久し振りにて太平洋の水を見る感甚だ深し、歌あり

茜さす太平洋の彼方には我待つらんか波寄せ來たる

午後八時三十分「シャトル」に着し、「グレート、ノーザン、ホテル」に投宿す、「セントポール」より鐵道一千八百十二哩なり

(沙市畧記)

「シャトル」は北米「ワシントン」州の太平洋岸に面する小都會にして、此地一帯の海を

「ピュケット、サウンド」と云ふ、港内水深く大船巨船を容るべく數十の埠頭、汽笛の絶間なく常に黒烟を揚げ之に續く「レール」數十條北より南より汽車茲に集中す、而かも只平家造りの狭き待合所と荷物扱所の外停車場らしき建物を見ず、改札所も「ブラットホーム」も無く汽車を下りて「レール」を踰ゆれば即ち公道なり、其無造作なる事一驚を喫すへし、市街は桑港の如く山腹に沿ふて設けられ其背面に廣大なる、「ワシントン」湖及び「ユニオン」湖あり、第一街第二街は最も繁昌の通路として四階以上の大厦薈を列へ、電車「ケーブル、カー」の往復頻繁よして文明の都市たるに耻ぢず、人口十一萬内日本人三千人あり多くは「ジャクソン」街付近に住居し、宿屋あり、飲食店あり、湯屋、散髪店、質屋、仕立屋、新聞社、醫師、口入屋、洗濯屋の類に至る迄凡そ日常の需要を満すよ足り身は恰かも日本内地に在るか如く道を行くに必らず二三の同胞に會せざる事稀なり

八月二十七日 晴、「シャトル」滞在



朝「バイク」街に日本領事館を訪ひ、途に「トツテンポール」を見る、市内の目貫とも云ふへき第一街の突當り小公園の内に在りて高さ三丈計りなる異様の紀念碑、木造よして天狗の面らしきものを彫刻す、個は數年前「アラスカ」より持來りたるもの、由にて土人の門前多く之を建て以て其家の名譽を表彰すと云ふ、甚た珍らしきものなり

其傍らに日本郵船會社の代理店あり、日本行の乗船切符を買ふ、代理店とは云へとも其實「グレート、ノーザン」鐵道會社の事務所よして應接は凡て米人なり、此地由來日本の移民多く労働者も多く入込み居る所なれば切めて事務員の一人位は日本人を雇ひ置くへき筈なるに、堂々たる日本郵船會社、萬事を「グレート、ノーザン」鐵道會社に委し切符の發行も、船室の割付も皆米人の手に成りオマケに獨立の船渠を有せず、數哩離れたる「グレート、ノーザン」鐵道會社の「ドック」を借用するとは甚た不見識の次第、米國唯一の日本船寄港地にして此有様とは豈慨嘆の至りならずや

歸途「エスライツエー」の或る口入屋の門前澤山の掲示あり、米人の労働者多く立見を成

す、余も傍より之を見るに種々の働き口あり日給一弗より四弗迄中には其働き居る家に寄宿せしむるもありて寄宿料一ヶ月三弗又は四弗とあり、之は室料よて食事は勿論自分持なれとも節儉すれば一ヶ月二十弗位にて可ならん、故に此國労働者は誠々割合よく「シャトル」の市民は労働より仕上げたるもの多しと聞く、余か余り熱心に眺め居るより傍の米人親切にも余も働き口を周旋せんかと尋ね呉れたるは難有迷惑勿々にして立ち去りたり

八月二十八日 雨、「シャトル」滞在

此日は日照なれども降雨劇しく、殊一兩日前より寒胃の氣味あるを以て終日在宿す、角の「ドラッグ」にて買求めたる風薬一劑二十五仙能書には一日にて全治すとあれども夫程には利かず、此國の賣薬多くは錠劑にして日本の如く毒薬、劇薬等の制限なく處方も甚た簡單にして利き目多しと云ふ、兎も角賣薬の發達せる所なり

八月二十九日 晴、「シャトル」滞在

日本領事館に久水領事を訪ひ、會談中偶々一日本人あり弊衣破帽、彼れ或ひは歸國の旅費



に乏しく慾を乞はんとするの徒にあらずやと見てある内「ポケット」より取出したるは燦然たる二十弗金貨一枚、氣の毒そうも領事の前に差出し輕少なから日露戦争の軍資に充てられたしと云ふ、其志の篤き只管感に入り彼れの立去りたる跡よて領事に問へば、彼れは數十哩を距てたる或る地の鐵道工夫なりと、微々たる一勞働者にして能く我か四十圓金を寄附す、内地に在る縉紳諸君此の勞働者に恥つる所なきや、領事の談話も依れば管内よ一萬二千の日本人あり、「シャトル」在留のものは多く墮落書生の徒にして各地に散在する勞働者は皆能く働き又能く蓄財せりとぞ、此地尙未だ勞働の余地多く資本家は日本の移民を歓迎するに拘はらず、日本政府は何故よや猥りに渡航を制限し國富を計らざるは思ふに未だ事情の疏通せざるものあるか、米國移民官は敢て正當の移民を拒まず、不正の目的を以て渡航するもの又は身に疾病ある者は上陸の困難を避けんか爲め故らよ英領「ビクトリヤ」に上陸しいつとはなしよ「シャトル」に入込む如き奸計を廻らすか爲め移民官も多少警戒を加へたりと、是等は邦人相互も戒飾すへき事なれども例の日本人排

斥杯云ふ事はさして恐るへきものにあらず、政事上の關係より時としては米國勞働者の機嫌を取らんか爲め東洋人排斥の法律案を提出し現に昨年如きも日本移民に教育試験を施さんと議案出てたる由なれども、個は只一時の現象に過ぎず、到底議會の協賛を得難く何れも否決したる位なれば此點には懸念なくドシ／＼移民を送るへきなり

領事館を辭し「レッシンパーク」を訪ふ、「ワシントン」湖に面する「シャトル」電力會社私有の庭園にして湖上の眺望を外にしては殆んど見るよ足らず、傍らに「ケーブルカー」の「パワーハウス」(動力供給所)あり、電氣力に依り廻轉する徑一丈余の大車輪に「ワイヤロープ」(徑五分位の鐵線狀)を掛け間斷なく運行せしむ、此「ロープ」は即ち市街軌道の下を走るものにして延長數哩に涉り幾萬の過客を運送すと、思へは割合よ仕掛の簡單なるものなり

「ワシントン」湖は周回十哩もあらんか、中に小島嶼あり備後鞆津邊の景色に似たり、小蒸氣船に乗り「マデソン」公園に向ふ、茲も亦甚た殺風景にして音樂堂あり、競馬場あり



芝居小屋あり、「ウォーター、シユート」あれども凡て不潔只「ワシントン」湖の景色あるのみ、早々去て第二街に歸り更に「ユニオン」湖を過ぎ、「シャトル」大學を訪ふ、此間電車を代ふる事四回程八哩にして賃金僅かに五仙是程廉直なるものなし

「ステート、ユニバーシチー」(大學校)は市の中央を去る四哩の田舎ありて甚だ閑靜、東京駒場の農學校に似たる所あり、折柄暑中休暇の事とて教室の内部を見る能はさりしも余り立派なるものよあらず、石造四階建一棟の外は煉瓦造三階の建物四棟あり、各分科大學よやあらん、木工科の教室及び電氣工學部丈は硝子窓より覗き見たれども甚だ寂寥たるものよて此大學には日本人一人もなしと聞く

大學の山を下れば學校用品を賣る小間物店及び「ドラッグ」あり、小かなる飲食店、洗濯屋等軒を並ふ、此邊木造の家屋多し、恰かも一戸新築中のものありて之を諦視するに我國のものよりは木の組方も削り方も鄭寧なり、大抵入口に階段を設け床下を高ふするか如し二階建と雖も甚だ立派なり、我國の洋風家屋は寧ろ單調に過ぎ多角式なる彼國の

ものとは比すへくもなし

「ユニオン」湖は周回五哩もあらんか、電車其邊を廻り甚だ佳景なり、目下其一端を太平洋に尙他の一端を「ワシントン」湖に連絡せしめんとして掘割の工事中なれば期年ならずして此内大船巨船の出入するを見るべし

歸途東洋貿易會社に工藤今次郎氏を訪ふ、此會社は専ら日本の移民を取扱ふものにして附近數百哩の内各地に支部を置き、「セクション」又は「ギャング」に働くべき鐵道工夫等の周旋をなす、茲に「セクション」と云ふは保線の爲め鐵道の各區に當置するものにして、「ギャング」と云ふは臨時に數十の工夫隊をなし各「セクション」の間を巡業するなり、工藤氏の談に依れば是等の「セクション」又は「ギャング」に働ける日本人は日給一弗三十五仙を受け、白人勞働者の日給一弗三十仙に比し五仙方優れり、個は即ち日本勞働者を歓迎する所以にして希臘及び伊太利よりは近日二萬の移民「シャトル」に上陸したる由、醜業婦は佛國人最も多く、希臘、伊太利の美人も各所よ散見するとぞ、此國醜業婦の巢窟は



多く飲食店に在りて別に置屋、張り店杯云ふもの無く何れも直接談判にして一回一弗以上二三弗と云ふ、此外別に男地獄もある様子にて烟草店等の門前立派なる若紳士の用もなくブラツキ居るは即ち米國婦人腐敗の種なりとか、恐ろしき事なり

八月三十日 晴、「シャトル」滞在

第七街に「キングカウンチー、コート」を見る、高地に設けられたる三階建の立派なる裁判所、訟廷は民刑各二個あり、何れも閉廷中にて階下に未決檻あり、入口は監獄則を揭示し信書物品の授受は甚だ嚴重なる如し、普通人民は火、水、金曜の三日午前十時より正午迄と午後一時より三時迄面會を許し、辯護士は日曜の外毎日午後四時迄面會を許す、尤も場合より依り典獄の立會あれども大抵は獄吏の立會を要せざる由、拘禁中の者現に八名あり

裁判所の近傍に市廳あり、木造二階建の粗末なる建物、二階に市長室、議員室及び水道掛の室あり、廳内所々に貼札ありて中には本年七月二日「ワシントン」湖に溺死したる

小兒の死体を發見したる者に金二百五十弗を與へんとの懸賞廣告もあり、其亂雜なる事驚くべく誠は平民的にして、他の市の整然たるとは雲泥の差あり

「セチカ」街は「パブリック、ライブラリー」を見る、此圖書館は木造二階建の粗末なるものなれども藏書甚だ多く、閱覽室の周圍に書棚を設け公衆の取出すに任せ別に「カード」目錄あり、著者の氏名別としエ、ヒ、シ順に分類す、監視者は婦人にして甚だ懇切、入場は勿論無料にして童幼の爲めは特に有益の圖書及びた伽話の類を集めたる閱覽室あり、十二三才の小兒澤山此内は在りて靜肅に遊ぶ、我國にても此設備ありたきものなり此地は賭博大に流行する模様にして市内到る處の烟草店には店頭必らず「トランプ」の箱あり、又骰子を備へ置き公然博奕をなす、其方法は烟草を買ふか如く何程かの金を出し「トランプ」の入りたる箱を廻すか又は骰子を振り、出てたる數を以て勝敗を決するものにて偶々勝ちて數多の烟草を持ち歸るものあれども、敗けて一本の烟草を得ず只取りに遇ふ事あり、勿論實際は烟草は關係なく金錢の得失をのみ争ふもの多きに之れを見る巡



査一向知らざるもの、如く、而かも此地賭博は嚴禁なれども、隣州の「タコマ」には昨年市長撰擧の際賭博公許を條件として現市長が就職したる爲め目下は一般に賭博を公許するにぞ、米國一流の不取締茲に至りて甚しと云ふへし

此地亦小兒の喫烟盛なり十二三才の男兒か紙卷烟草をフカシ大道を威張り行くは米國何れの地も同様にして、我國の如く未成年者禁烟法なき爲めとは云へ甚た見苦しきものなり

八月三十一日 晴、「シヤトル」滞在

此地着後日々停車場に行き紛失荷物の到着せるや否やを尋ぬるも此日迄着せず、歸朝間際の事とて大に困却し荷物係に嚴重の談判を持込みたる處、二日前桑港を發したる由にて午後六時よりは必らず到着すへしとの事なり、明朝四時には神奈川丸出帆すへく今夜より乗込まされは叶はぬ事故、念の爲め後事を久水領事に托し尙一應の掛合を頼みたる處領事は態々停車場より行き余の爲め種々交渉の勞を執られたるは地獄て佛、誠より難

き事なり

停車場を辭し去て「キチャパーク」を訪ふ、此公園は太平洋岸に沿ふて南北に長く幅一町に満たす、別に之といふ施設を見すと雖も傘形の風雅なる小亭に上りて觀望すれば、正面は太平洋の穩波青く「ボート、ブレイクレー」の島遙か見へ、大小の船其間を去來し「グレート、ノーザン」鐵道の氣車及び街鐵の電車洋中よ設けたる軌道を疾走す、甚た佳景なり、只迷惑なるは何れの公園に行くも必らず男女の一對あり樂しげに相語らふ處、野暮らしく長居も出來ず、匆々にして逃げ去る

轉して「ラベンナパーク」を訪ふ、此公園は既記の大學より更に一哩計り北なる田舎よりて幽靜閑雅、園の周回五哩に及ぶと云ふ、一人前二十五仙の入場料を徴し保勝の費に充つる由にて、之を入れは全く深山の趣きあり、千年の古木倒れて自ら橋をなし溪流青白色を帯び亦市中のものよあらず、「シエダー」の老樹高さ數百尺地上十八呎の處にて廻り四十四呎あり、是れより以下廻り三十呎位のものに數を知らず、樹々皆青苔を帯ひ辭



羅を纏ふ、朽ちたるあり、倒れたるあり、空洞木を利用して人工を加へず、晝尙暗くして奇鳥梢に啼く其聲凄然ソ、ロに「シャトル」の昔を偲はしむ、園内又鑛泉あり溪流の傍らに設けたる深さ五尺徑三尺位の井戸より噴出す、之を呑むに硫黄泉の如く一種の臭氣あり、溪流に沿ふて下れば所々小瀑布あり、終に一大池をなす其内小亭あり丸木を以て作り檜皮を以て葺く形容甚た古雅、周圍に設けたる音楽室及び馬見所様のもの何れも昔印度人の住居に摸したるものと聞く、此公園こそ眞に「シャトル」の公園として愧ぢざるものならんか、門口にて余の氏名を簿冊に登録す、蓋し好個の紀念なり

午後六時又停車場に至る荷物未だ着せず、此夜は必ず乗船すへき筈なれば大に當惑し先づ他の荷物を二哩計り隔りたる「グレート、ノーザン、ドック」の神奈川丸に持ち行き、更によ停車場に引返し荷物の到着を待つ、然るよ此邊の電車午後九時以後は運轉せず「エキस्पレス」(運送屋)も其以後は特別の運賃を支拂はさるへからず、殊に雇ひ馬車も不自山この事故此等の掛合に少からざる手間を費す内午後十時三十分桑港よりの汽車到着した

るを以て直ちよ貨物庫に入り取調べたる處、余の「トランク」あり荷物係よ其旨を通したるに、彼何等の取調べもなさず余に向つて直ちよ持行けと云ふ、余り無造作なるに兼て用意し置きたる證明書も在中の品書も何等の用をなさず、久し振りにて着換の入りたる「トランク」を手に入れ喜び勇みて「エキस्पレス」を雇ひ、其馬車に同乗して「グレートノーザン」の「ドック」に到る、生來始めて荷馬車の乗心地を味ふ、是亦一興なり

午後十一時三十分神奈川丸に塔す、此船は日本郵船會社の所有にして總噸數六千六百六十七噸、船長は英人「マツケー」氏事務長以下は凡て日本人なり時節柄とて乗客少なく、上等室は僅かに四人内日本人二名あり、中等に二人下等に三十名計り何れも日本人にして支那人は下等に數名あり、尤も數日來澤山の荷物を積込みたる様子にて船足は非常に深く水線を没す、船内萬事日本的にして船室に入れば早や已に日本に歸りたるか如く獨占の「カビン」誰に遠慮もなく、久し振り手に入りたる「トランク」を開き、和服に着換へたる心地よき、何時とはなしよ眠に就きぬ



九月一日 晴、「シヤトル」出發

此朝四時出發の筈なりしも濃霧の爲め延期し、午前九時漸く錨を抜く、暫くの間とは云へど足を留めし米國の大陸、見へすなる迄名残を惜みつゝ、日露交戦將に酣なるの時、而かも一年中の大厄日と云ふ二百十日に「シヤトル」の港を船出してけり

此日浪靜かにして海風稍や寒く午後三時英領「ビクトリヤ」に寄航す、茲より日本人の乗客二名あり、碇泊の時間少なしとの事故上陸は見合せたれも、甲板より遙かに眺望すれば高き「ドーム」あり市廳にやあらん、戸數は二千計り街衢整然たるか如し、聞く此地日本の移民多く目下角力の與行中なりと、棧橋に來れる一人の角力取、散髪よして短身風体は立派なれども甚た弱そうなり

午後四時三十分「ビクトリヤ」を發す、「シヤトル」よりの航程六十哩、茲より横濱迄は直航四千二百四十哩なり

九月二日 曇、瀛船中

此日浪平にして船進む事速なり、正午寒暖計五十九度甚た寒し

船中にて圍碁大に流行す、船員の甲乙來りて黑白を爭ふ皆弱虫なり。往航の「チャイナ」號にては船長、事務長、醫師、機關師の外夫々掛り員ありたるも其數多からず、皆一生懸命に働き偶々醫師が甲板に出て來り乗客の相手をなす事あれども必ず一定の時間あり、然るに此船には船員割合に多く、手隙なる儘に時を定めず遊ひ廻り、自轉車の曲乗、下手碁の鼻較へに乗客の機嫌を取らば、大に無聊を慰さむると雖も是畢竟日本人の執務に不規則なる所以にして出火の練習にも總員甲板に出揃はず、船長機關長は外人なれども其他役員皆日本人なるに依り取締の行届き兼ねる爲めか、米人は何れも其責任を重んじ當局の人、手つから其事務を取るか故に人數少なきも事務の抄取り善く、間違を生ずる事稀なれども日本人は大低配下の人に任せ一事をなすにも數人の手を経るか故に自然間違を生し易く、事情の疏通せる事多し、此點大に改良すべき所ならむ



九月三日 雨、瀛船中

波稍や荒く船揺く事甚し、此日大勉強にて日記を認む

九月四日 晴、瀛船中

平穩無事、船益北進す

九月五日 晴、瀛船中

濃霧咫尺を辨せず、瀛笛を鳴らしつゝ行く、句あり

波黒し日白し霧の太平洋

九月六日 晴、瀛船中

船イヨ／＼北よ進み、正午寒暖計五十度、船將さに北緯五十二度六、西經百五十八度四六に在り、厚き外套を被むれども齒寒く筆持つ手先凍ゆ

九月七日 雨、瀛船中

昨日に引續き寒き事酷しく、腹痛を覺ふ

九月八日 晴、瀛船中

稍や暖なれども波少しく荒る

九月九日 曇、瀛船中

正午西經百八十度を過ぎ、船東半球に入る、爲めに此夜特に日本料理を注文し、日本人相會して祝杯を擧ぐ

九月十一日 雨、瀛船中

經度の關係より十日は消滅し九日より直ちに十一日となる、往航には一日贏けたるもの復航よは一日を失ふ、此他に前後毎日時辰三十分を遅らす、是亦往航とは反對なり

此日は丁度二百二十日の大厄日なれども幸に雨天、風更になし

九月十二日 晴、瀛船中

此日は近來よなき快晴波甚た静なり、甲板にて寫眞を撮り、夜現像をなす

九月十三日 晴、瀛船中



平穩無事、船益南進す

九月十四日 雨、瀛船中

波荒れ船大に動搖す、日本に近きたるも出帆以來日露戦争の消息を知らず、露艦の來襲を恐れ此夜より船内燈光を滅す

九月十五日 晴、瀛船中

波稍や静かよして氣温頓ち高し

九月十六日 晴、瀛船中

波又大に荒れ「アツパーデッキ」を洗ふ、正午寒暖計八十度より上り、此日より夏服に改む

九月十七日 晴、瀛船中

午後四時三十分横濱港外に着す、波荒くして檢疫船來らす爲めに眼前横濱の埠頭を見ながら一夜を茲に明かさざるを得ず、余りの馬鹿らしさに信號旗手を促し他船に問へは檢疫官吏己に引上げたる跡よて假令船を港内に入るゝも檢疫を受くるゝ途なく、殊に檢疫

濟まさる上は如何なる事情ありとも港内に入るを許さざる由、嚴格の規定誠に結構なれどもサレバとて檢疫船の來られぬ程、激浪あるよもあらず、港内に入るも棧橋に付かねは何の危険もなきよ公衆の迷惑を思はず横着を構へ込み杓子定規に入港を許さぬとは借々日本は窮屈なる哉

信號に依り旅順未だ落ちず、本月四日遼陽占領の旨を知る

九月十八日 晴、横濱上陸

午前八時檢疫漸く濟み船港内に入りたるも水淺くして棧橋に付かず、四番の浮標に碇泊し小蒸氣に依りて上陸す、日本第一の横濱港僅かに六千余噸の船を棧橋に横付け出來ぬとは嘆すへき事なり

之れより以後日本内地に見る所米國に比較すれば面白き節もあらんと思ひ大阪着迄は渡米日記の内に組入るゝ事とせり

午前十時上陸、水谷、佐治の両氏と共に蓬萊屋に投ず、途上外國人居留地の建物皆粗末



にして低く、道路狹隘よして甚だ寂寥たるを覺へ、我乗れる人力車の便利は米國の馬車に優るも何となく氣の毒の感あり、宿よ着き直ちに入浴を勧められ、茶を出し、菓子を出し、烟草盆を持來る杯甚だ鄭重なれども、之は米國流よ捨て置かるゝ方却て氣樂にして、浴湯は流石に日本の方我等には心持よし、但し之も習慣のものにて清潔を云へは米國の方優れり

正午大阪の宅へ電報を發し、午後零時八分横濱發の瀛車にて東京に到る、車中にて露艦「レナ」號桑港よ入りたる由を聞き、太平洋上にて出會はさりし幸運を喜び、暫く見さりし故國の山水、鉢山の風景を賞しつゝ行く、先づ第一は感ずるは沿道各停車場の小奇麗よして整頓せると、瀛車の小作りにして速力鈍きと、停車時間長く着發に手間取り乗客の出入に込み合ひ、改札口の混雜する等之れは米國と異なる所にして二等車内に在る若き一婦人素足の儘にて「ベンチ」の上に横たはり脛の一部を顯はせるは甚だ醜く苦々しき事に覺へし

瀛車新橋に着し、先づ淺岡氏を訪はんとて電車に乗り通り一丁目に到る、銀坐通りの煉瓦屋今更よ立派とは思へず、人通りも寧ろ淋しき方にて各所に設けたる電車停留場、サナキたに速力遅緩なる電車か乗降の客なきに必らず停車するとは甚だ無益なり、之は米國流に車内多數の「ベル」を設け降りんと欲する客は其「ベル」を引き客の望に依り何れの町にも停車し、乗らんと欲する客は町角に待受け停車せしめて之に乗る事とせば客も便利、車掌も乗降客なきに停車する手数を省くへし、米國には瀛車にも「スラグ、ステーション」と云ふものあり田舎の小さき「ステーション」にては乗降客ある場合に限り旗を出し停車するも此旗出てきたるときは乗客なきものと見て停車せず通過す故に之か爲め大に時間を節約するなり

此日淺岡、原、杉浦の諸氏を訪ひ、夜大塚氏方に宿す

九月十九日 雨、東京出發

午前八時大塚氏方を辭し横濱に還る、途次銀坐通りの天賞堂に入り蓄音器を購ふ、流石



に文明的の商店應接の鄭重なるは感すへしと雖も茶を出し、烟草盆を出すは無用の手数なり、買物を包むに悠々緩々急に釣銭を出さず、余計の時間を空費せしむるは甚たよろしからず、之ても余程勉強せる處ならんも米國にて買物する程氣持よからざるは尙多少の改良を要するものあるへし

新橋の博品館に入り繪はかき等を買ふ、由來我國の勸工場多くは失敗に歸し品物の賣行面白からずとは兼てより耳にする所なるか米國にては此種のもの到る處にありて何れも繁昌を極む、個は畢竟彼我の間人情を異にする爲めとは云へ我國の勸工場は大に改良を加ふべき余地ありと思はる、ソハ第一に勸工場の建物甚だ窮屈にして出口と入口とを分ち一旦場内に入れば道幅甚だ狭く光線の射入も空氣の流通も一向無頓着なる一筋道を廻りくつて漸く場外に出てホット息を吐くと云ふ有様、オマケに陳列は甚だ不規律にして部類分け杯云ふ事なく、袋物屋の隣に玩具店あり、其隣りに時計屋又其隣に文房具を商ふ杯何の邊に何を賣るやら一向わからず、一寸の買物をなすにも必らず場内を一巡せね

はならぬ仕掛なれば多用の人には却て不便なり、之は矢張り米國流に宏大なる建物の内各所より分類して品物を陳列し何處よりも出入を自在にする方顧客の便利にして、殊に商品物を陳列するにも意匠を凝らし人目を引く余地あれども我國の如き構造よてはそれも出来ず偶々一寸珍らしきものに付き立止まれは直様「何ぞ如何です」とやられ、匆匆去ると云ふ如き有様にては賣れぬも道理、番人の欠呻、眠氣覺しの下手將基に耽るものあるは論外の沙汰なり、尤も之は只構造上の事にて勸工場の商品物は普通粗悪のもの多く、價割高にして正札付を標榜しなから窃かに値引する杯の評判はあれども之は商人相互の間に矯正すべき事なり、全くは我國未だ時間の價廉く多少の時を費すとも各其專業家に就き購求すれば幾分安價なるへしとの考より何品も一時に調ふべき勸工場の便利を思はざる點が不振の大原因なるへしと雖も、追々開明に趣く時節、時間の貴重なるに至れば勸工場程、便利なるものはなく、建物利用に於ても是程經濟的のものなき譯なれば今後大に研究を重ね、我國にも十分發達す計るべきものなり



瀛車よて横濱に着し、停車場構内の鐵道案内所に就き、大阪行列車の出發時刻等を聞合はすに窓口より遙か隔りたる場所に「テーブル」を控へたる係り員、椅子に腰掛けたる儘應答する所甚た權柄らし、米國よては何れの案内所にも瀛車發着の時間表を備へ置き、係り員窓口に立ち懇切に應答するのみならず、美麗に印刷したる時間表を何人よも興へ居れり、茲等か競争の有難き所なり

一先つ蓬萊屋に歸り、水谷氏等に告別の上、午後三時五十分横濱發の瀛車にて歸阪の途に就く

瀛車中見る所程ヶ谷より戸塚の邊、雨後の翠綠、滴るか如くイツモ見る景色なから谷間に立てる藁小屋二三軒、油畫にも是程の風致なし、宜なる哉外人呼て世界の公園と云ふや、今にして日本の美國なるを悟れり

國府津「ステーション」にて三十分休憩の後次の瀛車に乗替へたる處、坐よ西尾哲夫氏あり奇遇を喜び名古屋迄全車す珍話百出傍らに人なきか如し話次偶々女服の事に及び袴の

必要を説きて止まず、坐に妙齡の婦人あり茲に入來りたる大阪の某紳士無頓着よも露人の強姦を説き日本服の危險を述ふる所、傍の婦人に對し氣の毒の感に堪へず、米國なれば必らず大眼玉を喰ふことならん

夕食の爲め食堂車に入る、此食卓は最も不体裁極まるものにして晚饗よ「スープ」もなく飲水もなければ「ナプキン」も置かず、「ナイフ」「フォーク」は最初列へたる儘のものを用ひ甚た不潔なり、其クセ入口には洗面所の設あり洋客の爲めに備ふるものならんも洋風にする位なれば、切めては下等の「レスチュラント」位の設備ありたく、前後不揃なるはよき笑物なり、客人か不作法にも食堂内にて帽子を被り、烟草を喫む杯は知らぬこと、て尙恕すへきも施設の不行届なるは早速改めたきものなり

九月二十日 雨、大阪着

朝名古屋よて西尾氏に別れ、車中徒然なるまゝ、米國の所見を我國の事情に比較し、瀛車の遅緩なること、停車時間の長さ事杯を考ふる内よ午後四時十分大阪の梅田驛に着す



97  
237

出迎への知友數十名互に無事を祝し、腕車を列ねて平野町の自宅に歸る途上見る所狹隘の道路、兩側に電信、電話の柱あり車二輛並へ行くにも困難の所あるは大阪市の体面に關はり、路傍の家屋低くして其上電線の縦横に架せるは外觀上宜しからず、是等は早く地中線とし市區改正を行ひ、路幅を取擴け街衢整然とは行かすともセメテは二三丁先迄見通しの付く位にはしたく、鴻池や米喜の横手が半丁計りの間何の商店もなく空しく家の側面を顯す様では大阪もマダノ繁昌とは云へぬなり

歸來幸に健康舊に倍し、留守中の用事山積せる間に此稿の後半を草す、此他京都と神戸と業務上の旅行をなし感ずる所多しと雖ともサノミハとて記せず、茲に擱筆することとせり

明治三十七年十月廿四日脱稿

## 余の米國觀

奥戸善之助述

西尾文造記

139

私か北米大陸を横斷しましたのは往復二回、滯留日數は僅か三十八日で、桑港、聖路易、華聖頓、費府、紐育、「ナイヤガラ」、市俄古、「シヤトル」等主要の地は大抵通過しました、滯在中は地圖と磁石を便りに方々を駆け廻り、社會の上層も下層も善惡美醜の別なく、表裏縦横を觀察した積りてはあるが、何分にも短日數のことで十分は行かぬ、不學短才の私が僅かの旅をして直ぐ米國通になるて云ふことは到底六つかしい、夫故自然觀察の誤りも多からうか、併し一面から云へば滯留日數が長くなると、異様の風俗も目には慣れ耳に慣れ、兎角感しか鈍くなる傾がある、始めて新しい土地へ飛込む時は、見るもの聞くもの、皆な珍らしく一々脳髓を感動を與へるから、此時の觀察は多少の誤か



あろうとも範圍が廣く却つて珍重すべきものであろうと思ふ

米國の大なることは云ふまでもなく、面積か何程で人口か幾許、産物か何で會社か幾つあるつてことは大抵の書物に出て居る、殊に派遣せられた吏員の報告と云ふ立派なものがあるから、此等は一切抜いて只私か實地に見聞して感じたこと丈を述べることにしまし、先づ第一は知りたいたいのには在米邦人の生活である、桑港、「シヤトル」杯太平洋岸の都會には數百の日本人が居り、大西洋岸の紐育にも、中央の市俄古にも、聖路易も澤山の同胞が入込むて居る、併し太平洋岸程多くはない、それに聖路易の日本人は目下博覽會が開けて居るので、一時非常の多數であるが、博覽會か濟めは又四方に散るので、思ふに今の市俄古の如く多分十人か二十人位になるであらう、此外にも「ヴァンクバー」とか「ポートランド」とか云ふ太平洋岸の都會は勿論、中部の小都會にも、町にも、村も澤山入込むて居る、これ等は大抵皆な勞働者で、商業に従事して居るものは殆んどない、尤も日本人の多く居る所には宿屋もあり、飲食店もあり、湯屋、洗濯屋、雜貨店杯もあ

るが、是は皆な日本人相手の商賣で米人を得意にするものは甚た少ない、私の知つて居るのには紐育の森村組、市俄古の長鹽、「シヤトル」の古屋、桑港の坂口位のもので皆な米人を相手に日本の雜貨を商ふて居る、斯様に商人か屈指に過ぎない程に少ないと云ふのは、畢竟資本か無いからでもあらうが、實は勇氣の足らぬ所かある、現に支那人は日本人よりか多く米國の地に入込むて居り、山間の僻地、同胞人のない處ても、一個に洗濯屋杯を始め、「バスケット」を肩にして、得意廻りをして居る、實に感心すべきこととて日本人は大抵同胞の連れかなければ居ない、殊に「バスケット」を肩にするのは体裁か悪いなんて、嫌かつて遣らない、こんなツマラヌ外見を張ると云ふ卑屈な根性は結局人心を腐敗せしむる原因である、桑港や「シヤトル」に居る多數の日本人は書生上りの青年が多いそうだが、これ等は皆な勞銀か高く、衣食の資に窮しないので、只これと云ふ取止めた職業もなく、無暗に服裝計り飾り立て、ブラ／＼と其日を遊び暮らして居る、終には五年、十年も瞬く間に經過して亞米利加の破落漢、アメゴロとなる者が數知れぬと



云ふことだ、これ等は誠に歎すべきことであります、併しなから米國は何れの地に到りましても富力は充實して居るから、働かさざるは必らず割合のよい勞銀を得、生活費を節儉すれば暫らくの間に相當の貯蓄も出來ると云ふ暮らし易い所で、現に桑港や「シヤトル」の市中を離れて中部亞米利加の僻地は鐵道工夫となり、炭坑夫となり、農作や、木挽に従事して居る者は皆相應の蓄財をして本國に多額の送金もすれば、今度の戰爭に就ても五十圓、百圓で軍資に獻納を申込む者が續々あると云ふのは結構のことである。在米邦人の現況は右の如くであるが、翻つて米國の状態を見れば、開國尚久しからざる國柄丈に、未開の富源は到る所もある、桑港から汽車に乗つて少し東に行けば二三日引續いて、茫々たる平野の内を行くが、これは「テバタ」の平原で見渡す限り木もなければ水もなく、廣さがドレ程あるか見當か附かぬ位、まるで大洋の中を行くと一緒だ、それで耕作に適せぬかと云ふと、そうでない、都會附近にマダグ／＼澤山の未開地があるからそこ迄手を附けないのである、これと全様の平原は北部「モンタナ」州にも在り、又「ロ

ッキー」山中には千年の古木鬱蒼として繁り、斧鉞の味を知らずに倒れたるもの、朽ちたるもの、累々たる有様であるが、之れもそこ迄手が届ぬものと見える、殊に日本から最も近い布哇の島では、目下砂糖や珈琲の栽培が盛であるが、是亦尙耕作に適する土地が十三萬町歩以上もあつて未だ開墾はされて居ぬこの事である、だから農業とか林業とか乃至鑛山とか鐵道とかで、勞働に従事する積なれば此上五萬や拾萬の人数が押掛けていつても働く餘地は十分に在る、殊に米國政府では大に移民を歓迎して、開墾を奨励する爲めには、種々の便利法を設けてある、土地を貸下け又は拂下けて呉れる、資本家も特に日本の勞働者を歡待する傾がある、現に北米「グレートノーザン」鐵道會社の工夫は白人一日の給料一弗三十仙なるに日本人には一弗三十五仙を給與する定めてある、それから又商業の方では追々日本品の需要も増加する趣である、假に米國で商店を開くものとすれば金利は甚だ低いもので、一ヶ年僅か三分位だ、個人信用の發達した所丈に堅くさへして居れば商品の元拂は六ヶ月迄猶豫し、擔保を入れて金を借りても、倉庫の出入



に干渉を受けぬと云ふ位、至極氣樂な所だから、日本で商賣をするよりか、米國で營業する方が却て遣りいと或雜貨商の實話であつた

故に農業にまれ、商業にまれ、工業にまれ、目的あるものはドシ／＼渡航するかい、例の東洋人排斥なんてことは恐るゝに足らぬことである、米國政治上の關係から勞働者の機嫌を取る爲め、一時支邦人排斥とか、日本勞働者上陸禁止とかの法律案を出した、昨年の如きも移民に教育試験を行ふと云ふ議案を出したか、イツモ議會は否決する計りに到底モノニならぬとは米國一般に知れ涉つて居る事實である、それよ我國の當局者は何故か米國の渡航を嚴重に取締り殆んど禁止する様の傾向があるのは、實に私の解するに苦しむ所である、内地は年々人口が増加し、五千萬の同胞は互に其肉を喰ひ合ふ様な次第で、寧ろ海外に移民して、日本の國富を計るべきであるに、私か一寸米國へ渡航せん爲め旅行券の下付を願出したら、警察から吏員を特派して、何の目的で何地に赴くか旅費は何程持ち、何人の世話を受けるか財産は幾何あつて、留守中は如何するか杯、ツ

ルサイ程訊問されて、數十日を経て、漸く旅券を下げ渡された位で、書生や、勞働者が旅券を得難いのは苦しむて、終に渡航を思ひ止まるも無理でない、折角の奮發を挫折せしむるは甚だ遺憾の事で、これは全く地方警察官が政府の命令を誤解して、杓子定規にやるからでもあるが、在外領事の話にも、可成一時に多數の移民を上陸せしめぬ様、米國勞働者の注目を避け、尙醜業婦の類は絶対に渡航を禁止する等の點から見れば、或は例の事無かれ主義即ち憶病政略から割出されたる事ではないかと思ひます、若し果してそうなれば之れは甚だしい誤解で、現に私か滯米中にも希臘及伊太利から二萬人の移民か「シャトル」に上陸した事もあります、醜業婦は佛國人か最も多く米國の各地に散在して居る、日本の醜業婦も決して少くはないけれど、之れは寧ろ移民の先達とも云ふべきもので、婦女の身を持つて深く未開の地に入る勇氣は實に敬服すべきものである、それか國の体面に拘はる杯と云ふは誠に世間見すの空論で私に云はすれば如何な目的でもドシ／＼渡航を許して敢て干渉をせず、十分寛大に渡航を奨励する方針を探り、それで向



ふへ着いた上は居留地を建てるなり、組合を設けるなり、互に戒飾して例の「アメゴロ」を作らぬ様、領事も十分の取締をする様にしたら、至極適當の良策と思はれますが今は全くこれと反對で私は大に我國當局者の猛省を煩はさんと欲する所であります

次に私ハ見た米國文明の程度に就ての所感を述べまするか、元來米國は歐洲の殖民地で獨立以來僅か百年計りでまだ何事も創設の時代は屬して居る、富力の充實して居るか爲めに萬事金の力で逐日開明は赴きつゝある所でありますから物質的の發達は非常のものである、併し人の品性杯云ふ點に到つては余り感服出來ない所もある、彼國で最も驚くものは交通機關の發達して居る事で、先づ日本を出て十日計りで布哇へ着けば港灣の立派なることに荒膽を抜かれ、何千噸の船でも棧橋へ横付けが出来るのみならず棧橋は鐵道を敷設して、水陸の連絡完全して居る、陸上には電氣車が縦横に走り、數階の大建築立派な大道路は目を驚かす位のことにはマダマダ宵の口で、船が桑港へ着いて上陸して見れば、街衢の整然たること、一町を百番地に分け、路の兩側を番地の奇數と偶數は區

別して何町何番地と云へは直ぐ其距離と所在とを知ることか出来る、又十數階の大建物高く天を衝き深く地に入る所、廣き道路の「サイドウォーク」に丸形の硝子を嵌め地下室の明りを取り、夜は其下に電氣燈の光が輝き足元明るく、各商店の「イルミネーション」に眞個の不夜城を現はし、四通八達之電車、瀛車、「ケーブルカー」、賃金は僅か五仙、雨が降つてもカリ／＼の煉瓦道、石道、「アスファルト」の道も縦横に走り入道の「ペーゾメント」靴を汚すへき泥濘もなく何處へ行くにも交通自由である、又北米第一の都會、紐育に行けば五階十階は愚か三十一階に及ぶものがある、高架鐵道、地下鐵道、馬車や電車の雜踏は目を眩す計りて、實は夜も晝もない繁華熱鬧の市中所々に小公園がある、「セントラルパーク」杯云ふ公園は面積八百七十九「エーカー」即ち我が四百七十町歩もあつて廣大なる事天下に比類かない、圖書館、博物館、動物園、植物園其他一切の設備一として備はらざることなく、實は東京や大阪の町とは逆も比較ならぬ、只茫然として呆るゝ計りてある、翻つて其住民の有様を見るに、男女共は活潑で而かも勤勉である、ま



九紳士は親切である殊に一般に金色のものを好み、萬事に派手々々しう、丁度田舎紳士の風があつて、男女ともに路傍に立喰をして居る、巡査なんて、正服イカメシク巡廻中にも梨とか桃とかムシャ／＼遣りながら立話をして居ると云ふ有様、そして賄賂は公然の秘密で賭博は大低黙許せられて居ると云ふに到つては、一驚を喫せざるを得ない、何分にも創設の時代萬事に不取締で、一寸汽車に乗つても我國の汽車の如く笛を吹いて發車の合圖をせず、イツの間にやらゴロ／＼と動き出し「プラットホーム」もない停車場も着き「レール」を踏へて直ぐ町へ行くと云ふ都合で、不馴のものには随分危険で荷物の間違や汽車の衝突なんて珍らしくない、車掌が乗客から賃金を貪はりて私する事も折々あるとは嘘らしい實話である、又彼國の田舎では今尚「リンチ」と云ふ事が行はれて既に昨年二月中「モンタナ」州の「グラスゴウ」と云ふ所で黒奴か人の妻を強姦した爲め入獄せられた、處か村民が集まつて之れを奪ひ去つて町外れで火刑に處した、男女老幼の見物は拍手し、警察官も亦見て見ぬ振りをして、敢て咎めないと云ふ始末、是等は全く野蠻の

遺習ではあるか國法の適用杯も甚だ緩大で裁判所に往つて傍聽して見ても我國の如き威嚴はない、只曲直を判すれば十分だとする有様、夫れも便利と驥速を旨とし、可成融通をキカセ、我國の如く嚴格に法律通りを行ふと云ふことはない、判事の如きも年俸一萬弗以上も出して學識共に高く、名望ある辯護士の中から採用するのであるから其裁判は常に信服すべきもので、人民其堵に安すると云ふ次第、茲等か米國の大陸的なる所であつて、我國の如く萬事に抜目なく、キツシリと取締り何よもかも法律ヅクメに遣るのとは大なる相違がある、私も「セントルイ」にて「トランク」を失ひ紐育の「ステーション」に掛合ひ「シャトル」に到つて、漸く手に入つた事があるか、其時若し自分の「トランク」であること云ふ証明を要することもあろうと思ふて、兼て在中の品書を作り尙其鍵をも用意して行つた、處か汽車が桑港から「シャトル」に着くと、其「トランク」を見出して荷物掛よ此「トランク」であると告げたら、何の調査もせず「オーライ」と云つて直ぐに渡して呉れた、一寸張合は抜けたけれども何ほ便利だか知れぬ、日本なら屹度証明だとか何とか八



ケ間敷事だろう、百中一二の間違の爲め九十九人に迷惑を掛ける島國的ヤリ方も余り感心したものでありません、大に考ふべきことであろうと思ふ

米國の文明は右の如くにして學問と云ふ點に就ては其淵藪たる「ボストン」を見ず、時恰かも暑中休暇に際し諸種の學校も休業中よて殊に知名の學者文人も皆避暑の爲め居らず爲めに調査の行届かさりしも、思ふに此點の發達は甚だ幼稚らしい尤も北米到る處は大學校あり、圖書館、博物館等は凡て入場無料である「ワシントン」府の圖書館には特に盲人の爲め設けた凸文字の圖書室がある、「ジャートル」の圖書館には小兒の爲め一室を設けた伽話や繪草紙類を集め、人智の開發に勉めて居る、勿論是迄隨分立派な學者を出した「オハイオ」州の「ミラン」からは電氣學に有名な「エヂソン」氏も生れたのであるが、萬事か前述へた通りであるから北米は要するに學問の地ではない、少なくとも法律とか哲學とか云ふ高尚な學問を研究するには適當の國と思ひませぬ、故に實業の目的を以て渡米するは格別學問の爲めに行くのは大間違であると思へます

そこで彼國の商工業の事よ就ては先づ富力の絶大なる事を思はねばならぬ、毎年國庫に幾億の剩餘金を積み、尙年々増加すると云ふ、誠な羨ましいことである、それは彼國の土地廣くつて人口が稀少、殊に未開の富源多く、商工の業益々盛なるか故で、米國の事は大低此金力と云ふ事を以て解釋せらるゝのである現に物價が非常の高値を保ち、我國よりは約二倍以上三倍に及び勞銀が一弗以上二三弗に上ると云ふのは全く金の饒多なる故で生活の程度も高く貧民少なく掬摸や小盜のないのも交通機關の整備も道路建物の立派なるのも乃至個人信用の厚いのも實は金力の然らしむる所で金利の低廉なるは確かよ米國商工業をして今日の如く隆盛よ到らしめたる原因と思ひます、現に紐育の株式取引所では一日平均三百萬株の賣買をなし、産物取引所では毎年億以上に及ふべき取引をすると云ふ、嘗て「アメリカンシユアチー、ビルヂンク」を新築するに際りて買収したる敷地は一坪に付我金二萬八千八百圓を要したりと云ふに至りては如何に紐育が世界の大都市場であるかを想像するに足ります、彼地商人の活潑なると大仕掛なるには感心すへきも



のである、一寸した雜貨の小賣商店に入りても客扱ひは甚だ鄭重で、茶や菓子を出さずとも客に満足を與へんことを勉め、素見してもイヤな顔せず、廣告や陳列に意匠を凝らし常に流行の魁をせんとする心掛けは我國商人の當さに學ぶべき所で、毎年の流行は重なる商人の聯合して豫しめ之を定め目下の在品は元價を切てまでも非常の格下をし、中流以上は買人なき迄は賣崩し置き茲は兼ての貯藏品を賣出し大に流行せしめて巨利を博すると云ふ工合だから聯合商人は嚴に秘密を守り、我國から態々商業視察に出掛けても流行の點に付ては結局要領を得ず了ると云ふ有様である、夫れから北米第二の都會である市俄古に行けば、其處には「ユニオン、ストックヤード」と云ふ世界最大の屠畜場があつて、廣袤一哩四方、内に無數の羊、豚、牛、犢の類を養ひ各町名を付したる十二の大道を通して、數十の監督者馬上で其間を巡視し、上に數條の高架道を設け家畜の群を往來せしむると云ふ杯、誠に驚嘆すべきものである、「ユニオン」の一なる「スウィフー」會社を訪問し、屠畜の現状を見ましたのに器械的作用を以て牛豚の類を殺すこと

見る間に數百頭、皮剝場、貯藏庫、ハム、ベーコン、サーセイジ及びヒラード、石鹼の製造に至る迄皆此處より出來上り其冷藏庫に貯藏してある、無數の牛豚は世界各國に供給せらるゝ、そうして現に此「スウィフト」會社のみでも資本金は四千五百萬弗昨年の賣上高二億弗に上り現今日の製品を輸送する爲め私有の鐵道貨車三百五十輛を運轉すると云ふに至りては其大仕掛なること實に驚く計りてあります、又同市を距る十哩計りの處に「ブルマン、カー」製造會社がある、此工場は米國各地の鐵道に立派なる寢臺車及び特等車を供給する爲め「レール」及び機關車を除く外客車に屬する一切の材料を製造する所で使用職工六千五百人規模の宏大なるは今更云ふ迄もなく二千五百馬力の大原動器に依つて場内の諸器械を運轉し鍛冶工場、鑄工場、木工場、眞鍮工場は何れも目新らしき器械的作用を以て巨大の材料を處理する工合、我國の砲兵工廠と異りません此會社ある爲め茲に「ブルマン」なる戸數千軒余の町を作り特に「ステーション」を置き「ホテル」もあり銀行もあるとは亦盛なりと謂ふへしてす、此他「ペンシルベニヤ」州の「ピッツバーグ」には銅、鐵、



銅器、油、硝子類の製造盛て殊に「レール」鐵管の本場である西比利亞鐵道の材料及び英獨、暹島の電氣鐵道は皆茲に供給を仰きし様子、實に世界工業の中心一ヶ年三億弗の製品を出す爲め三千の工場を有するとは米國の爲め大に賀すべき事て富力の増大は實に量るへからざるものであります茲に至て私は寧ろ米國を恐るべき國と思ふのである併し米國は民主政治の國丈けに最も自由を尊ひ社會に階級なく官吏も商人も農民も勞働者も皆同様に一等氣車に乗ると云ふ有様で我國の如く勞働者を卑しむことなく國民皆獨立の氣象に富み勞働は神聖として如何なる富豪の子弟も勞働に従事するは間々ある習てありますから自然勞働者の羽振もよく時には「ストライキ」云ふ勝手な眞似をして雇主を苦しめる事はあれども元來か普通撰擧の國ゆへ國民中最多數なる勞働者の機嫌を損ねてはならず、夫れか爲め今年「シカゴ」は劇しき「ストライキ」があつて職工中二三の横死者を出したる位なれども次の大統領改撰を氣拂へて嚴刑の取締も出來す余り「ストライキ」組の放縱なる仕打に一般人民も同情を寄せない程の有様であるか兎も角勞働は神聖

なりと云ふ事は國家富強の基であると思ふ、我國の様なブラ／＼と遊び暮し親の遺産で生活する人を結構の事じやと羨む様では到底駄目です、彼國の人は一体よく働き又善く遊ぶので身を處する事は誠に規律正しく一定の時間中は事務所とか商店より居り側目も振らす一生懸命に働き時間後は町から遙か離れたる僻地の自宅に歸り家庭の樂を共にし休日よは一切何用もせず夫婦相携へて寺院に行くとか公園に遊ぶとかして其日を暮らすと云ふ工合で日本人の様にダラ／＼ではない、事務所とか商店とか云ふものも皆町の真中にあつて其處は只其業務を扱ふ丈けて食事は皆飲食店に行くのであるから大きな建物の一室二室又は數室を以て之れよ充て一軒の家の内よも數十戸又は數百戸の事務所もあり商店もあり湯屋もあり散髪屋もあり飲食店もありと云ふ有様で、現に桑港の日本領事館は六層樓の四階に在る一室で紐育の日本總領事館は十階以上もあるべき大建物の六階目に在る三室を充てたものである、只「ワシントン」府よある日本の公使館丈けは流石に一軒の家を全部用ひて居るか領事館は市俄古も「シャトル」も皆相住房をして居る



而して是等の事務所又は商店に従事する人は比較的少數で何れも皆必死の働をなし、執務中は烟草も喫まず大低立詰て何か書き物をしなから卓上の電話を聞くと云ふ有様、ユル／＼と話も出來ず、勿論無駄話をする様にもなれぬ次第だから事務の抄取りも良く多くの人手をかけぬ事故、自然間違も少ない道理で我國の様に無駄な人数を使ひ長と名の付く人は仕事をせず配下の者に任せて置くから間違も起り手間も掛ると云ふ様なのは異なつて居る、之れは是非米國流に改めねばならぬ現に私か往航に乗つた「チャイナ」號は米國太平洋郵船會社の船で乗組員が皆外國人であるか、事務長の如きは非常の勉強家で始終何か認めものをし計算やら報告やらに日も足らざる有様、時折醫師が甲板上に来て乗客の相手をする事はあれども夫れにも一定の時間かあり猥りに乗組員のウロ／＼せるを見なかつた、然るゝ復航の神奈川丸は日本郵船會社の船で船長、機關長を除く外皆日本人である事務員と云ふ者も割合に多く手隙なる儘は時を定めず遊び廻はり自轉車の曲乗やら下手碁の鼻比へに乗客の機嫌を取るはイ、けれども出火の練習にも出揃はず乗客

の女を連れて淨瑠璃の稽古をする杯は余りに不規律、責任と云ふ觀念か薄ひ之れは誠に我國人の短所で米人は一体に信用を重んじ虚言しない、萬事は親切に一寸道を尋ねても二三町の所は付添ひて教へて呉れ四ツ辻に立ちて何れに行かんと考へて居れば道を尋ぬるかと親切に問ひ呉る、杯、土地不案内なる私には非常は快く感しました、又米人が公德を重するは誠に感すへきことで流車、流船に乗つても我國の如く混雜をせず互に譲り合ひ老幼婦人には特に注意を與へ手を取り肩を貸し全く知らぬ赤の他人も十分の親切を盡し、公園とか芝居とか人寄の場所には不潔不行儀の行をせず、傍人の厭忌すへき談話を慎むと云ふは大に我國紳士達の學ふへき所である、現に私か東京からの歸途流車中で妙齡の一婦人脛を出して「ペンチ」の上に横はりたる傍に大阪の某紳士か這入て來て盛に強姦の話を持掛けたるか如きは「ハイカラ」ならすとも擧擧すへきことで紳士も紳士たれば婦人も亦婦人である、只米國の婦人に付ては稍や感心の出來ぬ所もある我國の女とは正反對にて萬事に控へ目と云ふ事を知らず亭主の先きよ口を出し主婦然と威張り道を



行くにも亭主に傘をさし、せ荷物を持たせ悠然とスマシ込む杯は強ち夫か妻をイタワル爲とも思へず商店の受付事務所の書記杯に多く婦人を用ひ男子同様の仕事をすることは感心なれども男地獄のあることを思へば余り淑徳も治まらぬものと見ゆ「エレベーター」に乗りても婦人が居れば帽子を脱く杯は何たか馬鹿々々しく、余りに氣儘を増長せしめたるもの、私が乗つた流車中に入來りし一米國婦人が坐席のないのを見て、或る男が其席を立ちしよ、婦人は尙其席に就かず、跡から入來りし自分の夫を呼寄せ隣席の人に退去を求め其跡へ夫妻相並びて坐したるが如き、又或は二人の若き婦人が買喰をしなから無暗に喋り立て、車窓を開きて煤烟の入るを思はず、老嫗の注意を受けなから馬鹿々々しく開けたり閉めたり乗客の迷惑を顧みざるものありしか如きは確かに米國婦人の腐敗を表明するもので、此分て進めは米國は他日必らず婦人の爲め一大騒動か持上るてあろうと思はるゝのであります。

併し要するは米國の人は個人として規律正しく、親切て且信用を重するが故に社會の取

締はサシテ嚴重でなくとも別に不都合は起らぬのであるか、我國のは之と反對て法律規則の取締は嚴重なれども個人は無責任のものか多く約束は背き詐欺、背徳の行爲を敢てするか故に結局萬事か窮屈となり、イラヌ手數も要する譯で、米國の旅は誠は氣樂て知らぬ所も行人の親切でドウニカドウニカ道を迷はず拘摸や小盜は勞銀の高ひ爲め割に合はぬとてするものはない、停車場に詰め掛けても懷中物の心配なく、何れの建物にも出入自在で大統領の居室「ホワイトハウス」でも縦覽を許す程の自由國であるから何處へ行くも紹介杯云ふものは入らず、殊に從來我國とは因縁深き米國の事であるから此度戦勝の餘光を以て何處に行ても日本人は優遇せらるゝ方であるけれども之れとても吾々か日本て思ふ程世界の一等國とか強大國とかの眞價を認められて居るか否や甚だ疑問である、現に私か桑港の「ストロバス」と云ふ海水浴場て見た日本風俗の作り物に浴衣を裾長に着流したチヨン鬚の男子、帯もべめす跣足の儘て人力車を曳き、紫式部と銘打たる婦人を乗せ居る杯は噴飯の至りて、米人未だ日本の眞面目を解せざるものか多い、之れ



は誠に概歎に堪わぬ、私か旅行中にも屢々日露戦争の話が出て足下は何故に戦争に行かすや、問はれては日本の軍政を説き十萬や二十萬の兵を動かしても内地は常の如く庶民其堵に安んずる旨を告ぐれば不思議な顔して聞いて居る位なれば米人の同情と云ふも全くはイクラカ好奇心に出づるもので余より重きを置かれぬのか實際として誤はなからう、日本の工業と云ふも此度の博覽會杯て見れば各國の製品に比へ殆んど顔色なく獨逸の優等なるは素人目にも首肯せらるゝ所て專賣特許局の統計表を見ても昨年中の特許總數三萬一千五百八十二件の内二萬七千八百十九は米國人、三千七百六十三は外國人て其内英獨兩國の人民各千以上を占め日本人は僅かに六件に過ぎぬ、誠に心細いことである、吾々日本人たるもの大に奮勵一番せなければならぬと思ひます

以上述べた所は米國見聞の一端であります尙他に私の渡米日記で可成詳細な米國の事情を同胞に紹介し私か渡米の爲め費したる日子と金錢は假令私の爲めには無用と歸するとも、得たる智識を一人よても多く願ち諸君に依て利用せられん事を希望する次第であります

まして最終の言としては諸君よ是非一度の渡米を勸誘するのであります (終)



94  
234

明治卅七年十一月廿五日印刷  
明治卅七年十二月二日發行

〔非賣品〕

著者 大坂市東區平野町一丁目六番地  
發行者 奧戶善之助

印刷者 大坂市東區高麗橋三丁目拾番地  
井上吉太郎

印刷所 大坂市東區高麗橋四丁目  
三和印刷店



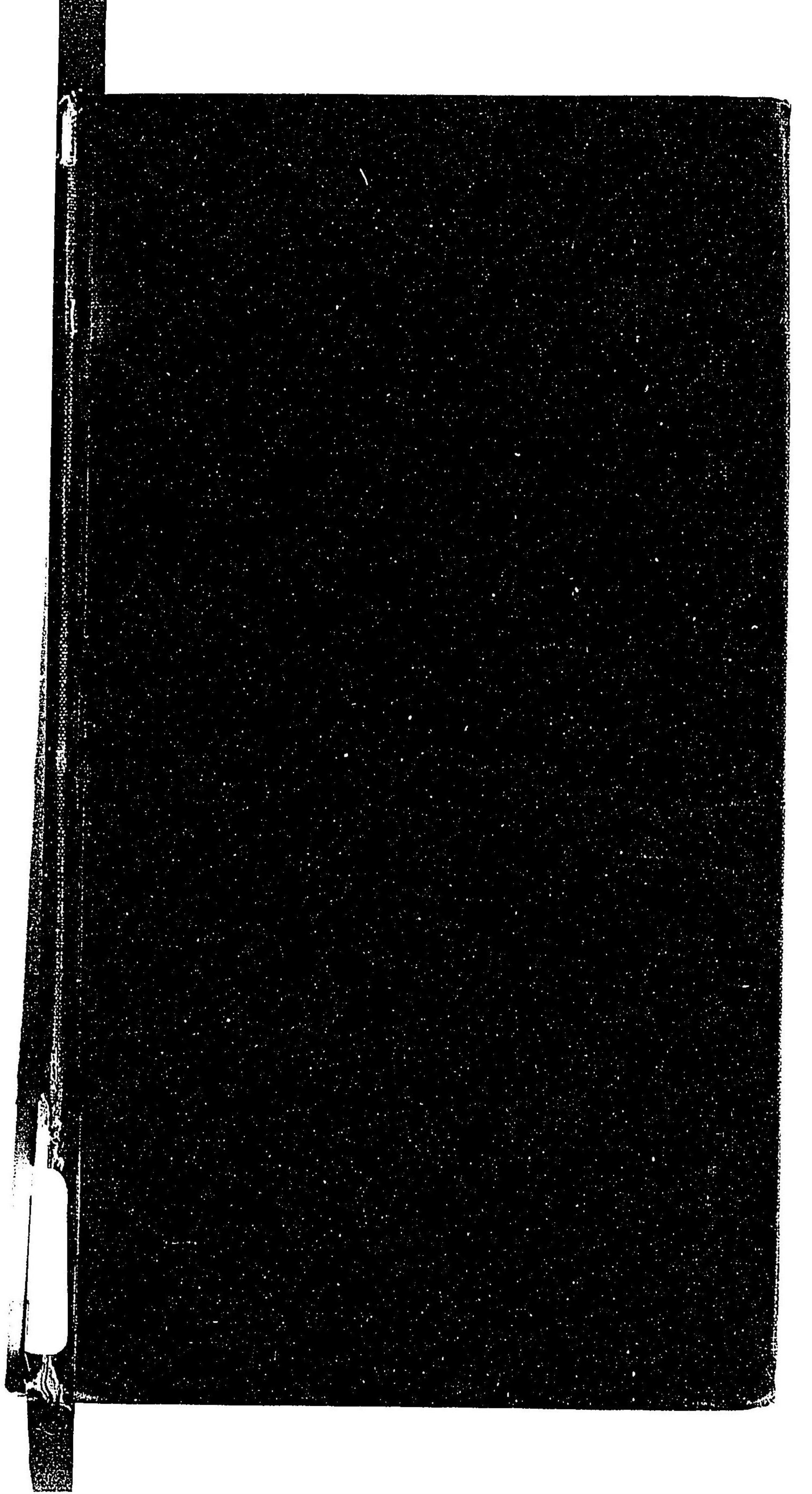




914  
237

129-







97

237

026918-000-6

97-237

渡米日記及余ノ米国観

奥戸 善之助 / 著

M37

ADG-0038

